市制50周年へ向けての提言書

21世紀の逗子へ

人とまちと自然の調和 ── 湘南のさわやかな風の通るまち

ZUSHI
40th.ANNIVERSARY

1995年3月

市制40周年記念事業実行委員会

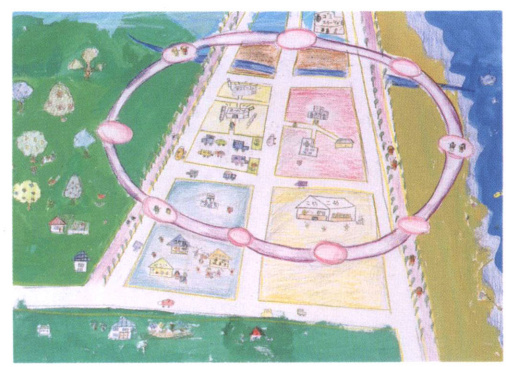
小学校低学年の部
優　秀　賞

河村　愛子　逗子小３年
『野鳥の来る木』

野鳥が来る木。この世界はゴミ、または自然を汚すものなどなく、自然の中にそびえ立つ木。動物たちが楽しめる木です。

久保島　一裕　久木小２年
『きれいな平和の町』

屋根がきれい。



小嶋　ユリカ　逗子小３年
『ドラエモンもびっくり瞬間移動通路』

空に浮かんだ瞬間移動通路で、海でも山でも買い物にもアッという間に行けます。足の不自由な人も赤ちゃんやお年よりも、車の危険もなく自由に遠い所へ行けます。

●表紙

小学校低学年の部
最優秀賞

石黒　真理　池子小３年
『すてきな未来の逗子』

未来の逗子は町のまわりに自然がたくさんある、今よりずっとすてきな町になってほしい。

●小学校高学年の部と中学校の部の最優秀賞と優秀賞は裏表紙と41ページに掲載しました。

市制50周年へ向けての提言書

21世紀の逗子へ

人とまちと自然の調和――湘南のさわやかな風の通るまち

1 子どもたちの「逗子・夢の未来図」……2

2 市制40周年記念シンポジウム

●第1回／逗子の未来「10代の意見」……6

●第2回／子どもとスポーツ……13

3 まちづくりに関する市民の意識……14

4 私たちの展望と提案

市内在住の専門家の提言……20

5 実行委員の意識とキーワード提言……28

●市制50周年への提言……38

1 子どもたちの「逗子・夢の未来図」

市制40周年記念「逗子・夢の未来図」作品募集事業

21世紀の逗子は、こうあるべきだ、こうあってほしいという、自由な発想に基づいた未来図を、市内の小中学生から募集しました。次代の中核となる世代の夢やアイディアを通して、未来の逗子のあるべき姿を探ろうというものです。
481点もの、子どもたちの希望に満ちたビジュアル・イメージが寄せられました。

●入賞作品

〈小学校低学年の部〉

最優秀賞	石黒　真理	池子小３年	すてきな未来の逗子
優 秀 賞	河村　愛子	逗子小３年	野鳥の来る木
	久保島一裕	久木小２年	きれいな平和の町
	小嶋ユリカ	逗子小３年	ドラエモンもびっくり瞬間移動通路
アイディア賞	池上　雅代	沼間小３年	自然がいっぱいある逗子
	くにたちまい	逗子小３年	ZUSHI MARU
	たちばなたくま	久木小２年	緑の青い安全通路
	中山　　祐	久木小３年	空港ができ首都になった逗子
	渡部　美香	池子小３年	海底逗子

佳作10点、入選26点（省略）

〈小学校高学年の部〉

最優秀賞	玉川　美炎	小坪小５年	自然公園
優 秀 賞	石渡　洋考	逗子小５年	遊び場のある緑の多い町
	鈴木　千恵	池子小６年	自然っていいですね
	長谷川友世	沼間小６年	星の見える逗子
アイディア賞	坂本かおり	沼間小４年	未来の水族館
	田口すみれ	逗子小４年	自然の中の逗子
	藤田　春佳	沼間小４年	海と大地の私の逗子
	藤本　真也	池子小４年	昔ののどかな世界へ!!
	松山小都子	沼間小６年	緑の町

佳作10点、入選20点（省略）

〈中学校の部〉

最優秀賞	根建美奈子	逗子中２年	逗子の未来の図
優 秀 賞	倉部　慶子	逗子中２年	靴のいらない街
	三留　崇征	逗子中２年	逗子・夢の未来図
	山崎めぐみ	沼間中１年	こうなってほしい未来の逗子
アイディア賞	斎藤　智子	逗子中２年	ビル
	千野　喬之	沼間中１年	知恵の都市
	直原　郁子	逗子中２年	地図
	山梨　智美	聖和中１年	海の上の空中都市
	横澤麻紀子	沼間中１年	自然の多い逗子

佳作10点、入選20点（省略）

※学校名、学年は応募時点（1994年２月現在）のものです。

●募集事業のあらまし

募集期間　1993年12月～1994年２月

募集対象　市内の小・中学生

審査委員◎永井鐵太郎（工芸美術家・日展理事）
○野田　芳正（人形作家）
長島　孝一（建築家・逗子市まちづくり懇話会副会長）
村田　林蔵（日本画家・院展院友）
澤　　光代（前逗子市長）
武藤　吉明（前逗子市議会議長）
前島　重方（逗子市教育委員会委員長）
石黒　久義（前逗子市立小中学校長会長）
田中　俊樹（市制40周年記念事業実行委員長）

◎委員長／○委員長代行

応募点数　小学校低学年の部　113点
小学校高学年の部　165点
中学校の部　203点
合　　計　481点

審 査 会　1994年３月19日

発表・表彰　1994年４月16日（市制40周年記念式典で）

作 品 展　1994年４月18日～４月22日
市役所ロビーにて、応募全作品を展示・公開

主　　催　市制40周年記念事業実行委員会（担当広報室50周年提言部会）

夢の実現に向かって

審査委員長 永井鐵太郎（工芸美術家・日展理事）

逗子市制40周年記念事業の一環として募集した「逗子・夢の未来図」へ、実に大勢の若い人たちに応募していただき、心から感謝しております。

その内容は実に多彩でさまざまでした。

○緑も豊かで、都会的な暮らしをとらえたもの。

○田園そのままに、自然を重視したもの。

○自然をテーマに、海に重点を置いたもの、木や森に思いを寄せたもの等々。

いずれも皆さんが〝夢〟に真剣に取り組み、しっかりとした考え方の上に立って絵を描いて下さったことを高く評価したいと思います。

私たちは皆さんの作品を拝見しながら、しみじみ充実した気分で、幸せをかみしめたものでした。

こうした感性豊かな皆さんの作品に順位をつけることにはたいへん苦心をしました。いずれも素晴らしいものでした。

どうか、お若い皆さんがたがこうした理想を持ち続け、大きくなられてそれぞれの分野で十分に力を発揮され〝夢〟の実現に向かって進まれることを心から期待して、審査講評といたします。

皆さんおめでとう、そして、ありがとう。

アイディア賞

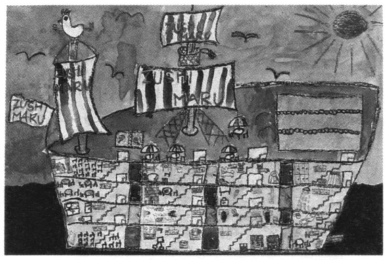
「最優秀賞」「優秀賞」の作品は、カラーページ（表紙まわり）に掲載しています。

小学校低学年の部

池上　雅代　沼間小３年

『自然がいっぱいある逗子』

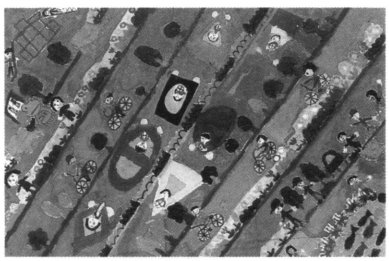
逗子市の人たちが畑を増やして、ゴミをなくして空気をよくしている絵。



くにたち　まい　逗子小３年

『ZUSHI MARU』

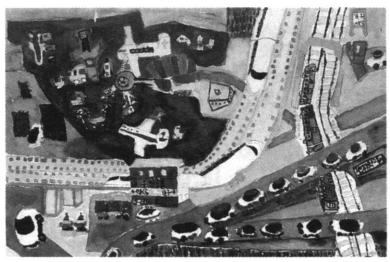
逗子湾に「ZUSHI MARU」という船を浮かべて、遊んだり、旅行したりできる船で、子供と大人、みんな遊べる船です。



たちばな　たくま　久木小２年

『緑の 青い 安全通路』

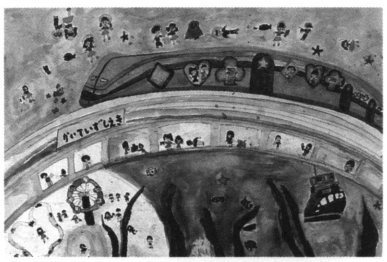
電気自動車と、自転車と、人の歩く道が別々になっていて、安全で緑がいっぱいある未来になってほしい。



中山　祐　久木小３年

『空港ができ　首都になった逗子』

首都になった記念に、空港ができて「逗子空港」と呼ばれるようになりました。（50年後）



渡部　美香　池子小３年

『海底逗子』

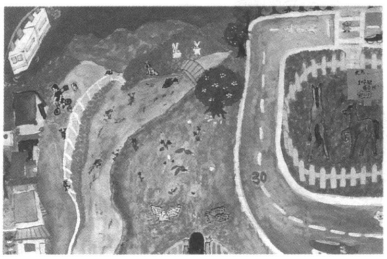
海の中に新幹線が走り、特別な帽子をかぶると自由に海の中で遊べる。

小学校高学年の部

坂本　かおり　沼間小４年

『未来の水族館』

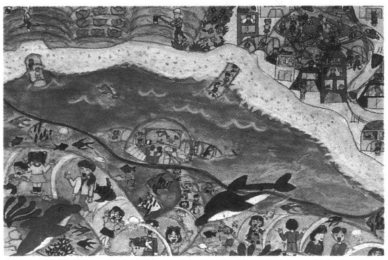
未来の水族館は、空の貝殻の中に人が入って見れます。魚の様子がよくわかります。



田口　すみれ　逗子小４年

『自然の中の逗子』

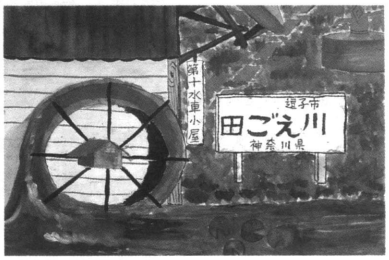
いっぱい山や木や草がいっぱいあるような逗子。交通も便利になるように、空を飛んでいるモノレールとかも。



藤田　春佳　沼間小４年

『海と大地の私の逗子』

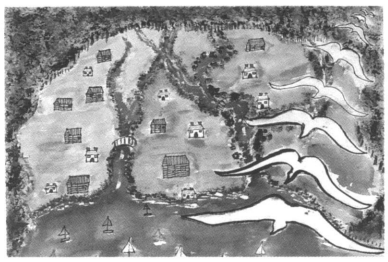
未来の逗子は、海にも生活できるようになるといいと思います。新しい都市のそばで畑を耕す人もいて、自然も多い逗子になるといいと思います。



藤本　真也　池子小４年

『昔の　のどかな世界へ!!』

昔のように、環境がよくなり、川もきれいになって、水車小屋が建てられたらいいなあと思ってかきました。そして緑が豊かになってほしいと思います。



松山　小都子　沼間小６年

『緑の町』

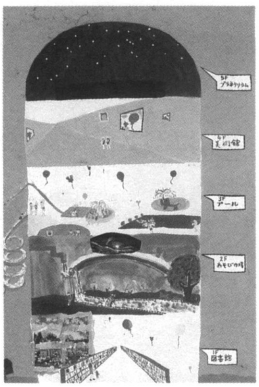
未来に逗子市が、自然と触れ合えるような市になってほしいと思い、こういう絵をかきました。

中学校の部

直原　郁子　逗子中２年

『地　　図』

この細かい絵をじっくり見てください。太陽エネルギーを使い、石油を使わず、大気汚染をなくしてしまい、超電導も使い、こんな乗り物にみんな乗っています。これは、地球の中のＮ極の物質が発見され、それと反発するＳ極の物質を取り付けたものです。プールや天文台などいろんな施設も町にできています。でもいちばん伝えたいことは、この地球の緑、自然を守ること。未来に行けば行くほど緑豊かな地球で、逗子であってほしい。

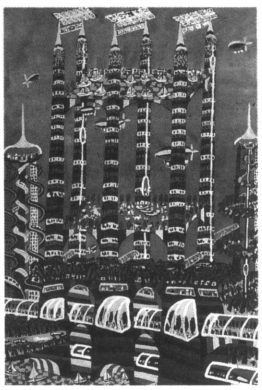


斎藤　智子

逗子中２年

『ビ　　ル』

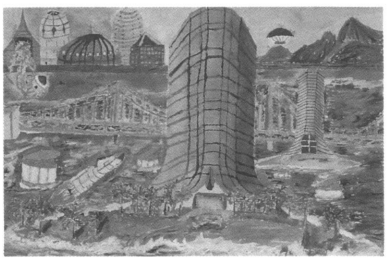
たくさんのことがひとつのビルで楽しめる、こんなビルが逗子にもあるといいと思いました。



山梨　智美　聖和中１年

『海の上の空中都市』

海の上に1000ｍくらいの高いビルが６本建ち、その上に、太陽エネルギーによって光をあて、昔の、雲の上に乗ってみたいという思いから、ビルの間に庭を作ったりしました。



千野　喬之　沼間中１年

『知恵の都市』

きれいな海に建っているのは、レジャーランドや会社とかが入っているビル。ロケットは交通のため。

横澤麻紀子　沼間中１年

『自然の多い逗子』

山や海にたくさんの鳥や魚がいたらいいな、という絵。海をきれいにして山を木でいっぱいにしたら、いいなと思いました。

2

市制40周年記念第1回シンポジウム

逗子の未来「10代の意見」

1994年6月19日(日)　逗子市立図書館ホール

●コーディネーター

菅　孝能／横浜国立大学講師・建築家

●パネリスト

小林 千秋／平塚学園高等学校２年

大田 英希／神奈川大学理学部１年

小坂 清滋／東京都立科学技術大学工学部１年

田口　聰／慶応義塾大学環境情報学部１年

＊

伊藤 一美／逗子市教育研究所長

市民交流の場づくりを

菅　逗子市はこの十数年にわたる池子の問題を通じて、たいへん大きく変わりつつあるように感じています。池子問題の決着はともかくとして、その間に市民意識が大きく耕されてきたと思いますし、行政も非常に開かれたかたちに展開しつつあると考えています。この市制40周年記念行事も市民の手づくりですし、逗子の変化を物語っていると思います。

しかし、逗子の未来を考えてみますと、問題はいろいろ山積しています。そこできょうは、10代の若い方がたからいろいろなご意見を伺いながら、会場の皆さんとも一緒に考えていきたいと思います。

40周年記念の共通テーマが「人とまちと自然の調和」とありますので、これを手がかりに話を進めていこうと思います。最初に「人」というテーマ、逗子の市民、住民について伺いたいのですが。

小林　私は、母が勤めていましたから２歳の時から保育

伊藤さん

園、小学校では学童保育で多くの時間を過ごしました。そういう中で多くの人と知り合いました。よそのお母さん、指導員、夏休みには大学のお兄さんやお姉さん、地域のおじさん、おばさん、おじいさん、おばあさん。1年生から6年生までの学童の仲間などです。けんかもしましたが、大家族の兄弟のようでした。中学生になってからも学童の先輩に助けられたこともありました。

小学校1年生からガールスカウトで、リーダーとしてよそのお母さんやお姉さん、中学生になってからは老人ホームの職員の方、痴呆のお年寄り、心身障害者の方がたと交流しました。私たちの生きている社会は子供も大人もお年寄りも、皆いるのが当たり前で、だから皆が自由に関わりあえる場所があったらいいと思います。

両親が勤めていたり、家庭の事情で下校しても家に誰もいない子供にとって、誰もいない家に帰るのはつまらないものです。安心して行ける所があるとよいと思います。

もちろん、学童保育に限りません。子供たちが自由に行けるところ。若い人たちと関わりの少ないお年寄りにも、孫のような年代の人や、おしゃべりのできる仲間がいて、お年寄りの知恵を生かせる所があれば、呆け老人も少なくなると思いますし、障害者も健常者も心からうち解け、助けあえる所、そんな温かでやさしい気持ちになれる場所があったらいいと思います。

もっとも、すぐにつくって機能させるのは難しいですから、まず中学生や高校生でも、自分のできることで子供やお年寄りや障害者の方のお手伝いができるシステムをつくったらよいと思います。

人と人のつながりを大切に

田口　逗子は、特に高齢者の割合の非常に高い市です。老人福祉については、どこの自治体でもいちばん最初にプランニングすることですし、逗子でも福祉プランを策定ずみです。ところがよく「ハードの先行、ソフトの不足」ということが言われます。老人ケアに関してはできていても、施設をつくることが先行して、高齢者の立場に立って考えると、どうなのかという点がかなりあると思います。

僕が提案したいのは、子供、若い人たちと高齢者の方たちとのふれあいの場をつくっていきたいということ。その観点で考えると、今逗子の中には老朽化した施設がいろいろあって、これは早晩建て替えないといけないわけで、その場合ロビーとか、部屋などを造って、そこに高齢者の方がたとか、子供たちが集まって話合いができたり、一緒に遊べる。そういう場所をつくる。もちろん、若いお母さんにとっては、高齢者の方はいろいろなことを知っていますから、そこから知恵を借りることもできる。子供も一緒に遊ばせておけるといった、非常に有用な施設になると思います。最近では、核家族時代になったので人と人とのふれあいが稀薄になってきていますから、そのつながりを深めるための施設をつくっていくのがよいと思っています。

大田　僕は施設よりも、個人個人が思っている考え方を改革することのほうが大事だと思っています。たとえ老人に対する福祉施設をつくっても、周りの人間の理解がなければ有効的に活用することもできない。逗子市に住んでいる市民の考えを、福祉の方向やボランテアの方向により進んで活発に活動できるようにもっていくことが重要だと思います。その後に施設のほうは副次的につくってもらったほうが、市としては活発になるのではないかと思います。

伊藤　私は仕事がら、人と会うのが商売といってもいいのですが、1日最低でも30人から40人、年間にすれば、何千人にもなるだろう。これがもし人嫌いだったらどうなるかということです。人の意識を変える、それから施設が必要だと言われていますが、しかしこういう例を考えるとどうなるでしょう。

例えば朝電話が入ります。それは相談ごとです。しかしその時に私たちが答えを言ってしまえば簡単です。手っ取り早いし、それで一応の方向、指針は出るかもしれません。でもそうしてしまっていいのかなという気持ちが去来するわけです。

例えば自分の子供のことで悩んで電話をかけてきた場合、それをどのように考えていくか。それは自立する心で考えない限り決して解決にはなりません。いま福祉問題のお話もありましたが、そのことで言えば基本は人にあるわけです。それも相手に何かしてもらおうとかいうことではない。自分自身がどう考えていったらいいかということなのです。私が人と人と会うのが仕事と言ったのは、実は解決を求めるためではなくて、お互い悩み合うための一つの場なのです。そういう意味で人と人とのつながりをまず第一に考えるべきではないかと思います。

RN（老若）ネットワーク

田口　僕が論文の中で提唱したRNネットワークという構想があります。RNというのは老若の頭文字です。今

菅さん

核家族化が進んできて、おじいちゃん、おばあちゃんがいない家族が非常に多くなっています。老夫婦は別に住み、新しい子供と親でまた別に住む。これだと非常に家族の関係が遠く薄いものになっていきます。しかしおじいちゃん、おばあちゃんは、長い人生を生きてきて膨大な知識量もあるし、助けあうことはできる。

例えば、若い夫婦が子供を預けて外出したい時に、おじいちゃん、おばあちゃん夫婦がいれば預けられる。そうでないと保育施設がいるとなって、またお金がかかる。そのお金はどこから出るかと言えば、税金です。でもそれほど公共性の高いものなのだろうか。そこにお金を使うのではなしに、人的なネットワークでやれることもあるのではないか。そういう意味で僕はＲＮネットワークというのを具体的に提案したのです。

基本的には、例えば逗子に住んでいる子供のいる夫婦に、そのおじいちゃん、おばあちゃんが遠く住んでいても、逗子にいるおじいちゃん、おばあちゃんたちが一緒に集まっている場所、組織でなくてもそういう集まれる場所さえあれば、ちょっと出かけたい時に預かってもらえるわけです。

要はおじいちゃん、おばあちゃんたちというのは、家にいて、暇な方も多いし、それに自分の孫みたいな子供を預かるとなれば喜んでくれる人もいる。そうすればお年寄りには生きがいを見つけることにもなるし、お互いに利用し助けあえると思います。

お年寄りにやさしいまちか

菅　それに関連してですが、２年間くらいかけて逗子のハイランドという所のまちづくりプランを、住民の方30人ほどでやっていたのですが、その中で同じような話が出ていました。そのまちの中には自治会館しかなくて、しかも１部屋、２部屋しかない小さな施設でした。住民の活動の場としては非常に狭い。例えば老人の介護とか、給食サービスもできない。あるいは若い人が寄ってきて活動するにも場がないということで、いろいろな活動ができるようにするにはもう少し大きい施設が必要になる。

それは何かというと、逗子市の場合、公民館のような施設ではないか。しかし公民館だと行政が管理しているという感じがある。住民が自分で管理できる、いわゆるコミュニティ・センターとか、住民センターとかいうようなものが必要なのではないか。その裏には住んでいる方のいろいろな人的ネットワーク、これを手がかりに展開していくわけです。ネットワークのような仕組みと同時に、それをサポートする場、例えばお年寄りがもっとまちに積極的に出られるようにするにはどうすればいいかとか、その点どうですか。お年寄りの方にとって非常にやさしいまちなのか、それともこういうふうに改善したほうがよいとか、ありますか。

小林　小坪公民館を見ると、トイレなどは和式がほとんどなのです。うちのおばあちゃんは腰や膝が痛いので、和式のトイレは座ったりするので不便です。公衆トイレもほとんどが和式です。もっと洋式を増やしたり、道路のほんの少しの段差でも、お年寄りは足を踏み外したりしますから、小さな点ですけれども、若い人ではわからないところも多くあると思うので、老人の意見も取り入れてください。

菅　逗子ほどの小さなまちだったら、もっと車のスピードを落とすとか、まち全体の道路のネットワークを考えるとか。例えば三浦半島のほうに行く車、鎌倉とか横浜のほうから入ってきて抜けて行く車、それから逗子の市内で動いている車がある意味でゴッチャになっている部分があって、それが逗子の市民から見るとイライラする。それをどう分けていくか、それは都市計画の大きな問題ですね。

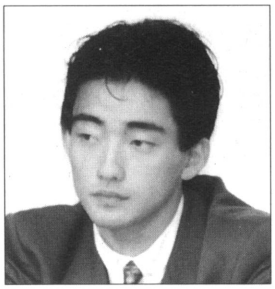
大田　年寄りはいたわらなければいけないということはわかっていても、たとえばお年寄りが運転すると反応がにぶかったりして、友達なども「邪魔だ」と言います。この人間の感情は多分いかんともしがたいものではないか。自分としても結論が出せないのですが、こっちが年寄りの気持ちを考えて運転するか、それともお年寄りのほうに一歩譲ってもらうかでしょう。あとは皆さんで考えてください。(笑い)

人と車の関係をどうする

菅　ところで伊藤先生は、お住まいも、お勤め先も市内で、歩いて通勤される機会も多いと伺っておりますが、そこから見た逗子のまちについていかがですか。

伊藤　率直に申し上げて、逗子のまちは歩きづらいです。私は毎日のように小坪から山をずっと登って、また降りてきます。私の足では20分で研究所まで行くことができます。それは車の通らない抜け道、古東海道を一直線で通ってくるから速いのです。今の逗子のまちは車にはよいのかもしれませんけれども、人間にとっては非常に歩きづらい。20年近くここに住んでいてそう思います。

もっとも運転する立場から見ても、けっして走りやすいまちとは言えないでしょう。古道や裏道など歩く立場


田口さん

から見れば歩きやすい道もまだまだ残されています。そういう道を大いに活用すべきだと思いますね。

菅　私も逗子に来ると、知らず知らずのうちに裏道、路地を選んで歩いています。そのほうが気持ちもいいしゆったりと歩ける。エッセイストの林のぞみという人がいますが、この人がパブリック・フットパスについて書いています。イギリスのまちの中の細かい路地で実質的に歩行者専用に近い道路です。だから車も遠慮して入ってきます。そこは非常に古い建物があり、通る人の思い出が詰まっているといった感じで、イギリス人にとっては非常に大切にする場所らしい。

逗子にもそういったパブリック・フットパスというのがあるのではないかなと思います。昔からの何気ない風景だけれども、逗子らしい景色がある。そういうことは若い方はあまり感じないですか。それとも車でサッと行ったほうがいいですか。

効率より人間味あるまち

田口　僕は逗子というまちは非常に好きなんですが、遊ぶ場所があまりないと思います。ただ歩くのが好きで、裏道とか表の道から一本入ると、市街地の中心地でも突然住宅地になっていて、まちというより人の臭いのする路地があるわけです。そうすると「やっぱり逗子っていいまちだな」と思うんです。

交通網という点で考えても、例えば東京に出るのに1時間。しかも乗換えなしですから非常に都心に近い。横浜も30分。海があり山がありで、まだまだ自然が残っている。もともとは別荘地ですから風景も良いし環境もかなり良い所だと思います。ただ、最近は車が増え過ぎたという感じはありますね。

市街地の再開発ということもいわれますが、無機質なまちになってしまうよりは、やはり効率の悪い所があっても人間味のあるまちとして残してほしい。

交通について言えば、逗子のような交通の便の良い所は、全員が車を使うことはないと思います。朝の逗子駅前などは、葉山から来る人の送り迎えの車などでいっぱいです。バスも走っているわけですから、バスを使えばいいのに車でくる。それではどうすればいいかというと、逗子の中心地には車を入れないようにする。車を使わなくてもいいまちをつくったらどうか。そうすればお年寄りも歩道の中だけにいる必要はないのです。ただコミュータバス、福祉バスというか、小さなバスをたくさん走らせて、長い距離は歩かなくてもすむようにする。やる気になれば、お年寄りにやさしいまちづくりは、小さいまちだからこそできるのだと思います。

菅　田口君は高校の時スイスに行っていたそうで、向こうでは電気バスとかコミュータカーなど発達しているのでしょう。逗子にも使えそうですか。

田口　そうですね。スイスは観光立国ですから、観光資源がなくなると収入の道がなくなってしまうので、市民の意識も高いです。だから電気自動車を使うとか、他の自動車は乗り入れさせないとか、登山電車で行くとかできるわけです。そのために税金を使うのはかまわないと思っていますし、逗子でもできると思います。それにはマイカーで戸口から戸口へ行くこととか、車で買物に行くといったことなどをどこまで我慢できるかではないかと思います。

菅　そういう意味では、生活は不便だけれども自然が豊かで快適な生活という、そのバランスをどうとるかでしょう。若い人にとってはどちらにバランスがシフトしていくのか。

大田　僕は自分で車を使うタイプではなくて、バスが好きです。車の混雑を考えるとバスのほうが速い場合が多い。しかし友達は個人的に車を動かすほうが好きという人が多い。やはり皆で車をなるべく使わないでバスを使うようにする風潮をつくっていかないと、かんたんにはできないのではないかと思います。

若者を引きつけるものがほしい

大田　先ほど老人向けの施設をたくさんつくるといった話がありましたが、それも確かに大事ですが、高齢化ばかり見つめないで、若者を引きつけるまちをつくることも重要だと思います。逗子自体はよく言えば落ち着いたまちですが、若者から見ればあまり刺激のない、つまらないまちという感じになってしまう。だから若者は皆他の都市に行ってしまうわけで、もう少し逗子のほうに若者を引きつける施設などがあれば、若者もたくさん集まって来ますし、活気あふれるまちになるのではないかと思います。

小阪　大田君の言ったことに対してですが、若者を引きつけるというのも結構ですが、それよりもまず市民全体の意識を変えることだと思います。交通の問題でも、自分が生まれた頃は、すでに雨がふれば車で行くのが当たり前だった。そういうものと思いこんでいた。しかしバスで行くようにしようとか、歩いて行こうという習慣を皆が持つ、そういう逗子の文化が確立していったならば、

小林さん

交通問題もなくなるのではないか。だからまず人を引きつけるより、市を安定させる方が先決だと僕は思います。

小林　今の私のことですが、家で大きい音出して音楽を聞いたりすると近所に迷惑がかかり、親から「うるさい」と文句言われたりすることが多いのですが、例えば市役所の地下の駐車場、夜そこでバンドやっている人たちが練習するようにすれば、近所にも迷惑がかからないし、またそこでライブコンサートを開けるようにしたりすれば、若者がもう少し逗子で楽しめるようになると思います。

菅　若い人の活動する場が少ないということですね。

田口　若者を引きつけないのは確かにあると思います。逗子は高齢者の多いまちだし、やはり老人福祉というのが社会的にいちばん最初にくる。あとは体の不自由な方、障害者の方への福祉。しかし、将来それを支えるのは僕らですよ。そういう意味で、教育制度のこともありますけれども、若者とか子供に対するケアはどうしてもなくてはいけないと思います。

逗子でかなり不足していると思うのは、文化施設、例えば逗子でバンドやりたいとなると場所がない、練習する場所も発表する場所もない。それなら横浜に出たほうがいい、東京がいいということになる。やはりきちんとした文化施設をつくらないといけないと思います。僕もバンドやってますし、若者が自分を表現していく場所というものが足りないという気がしています。

大田　逗子にはゲームセンターがありません。欲しいという人間もかなり多いのです。もう一つ図書館のことですが、防音処理がされていないのか、一所懸命図書館で勉強していても、小学校の音などが聞こえてきて非常にやかましい時があります。そういうことを少し考えてもらいたい。それに個人的意見はいっぱいありますけれど、どこに言ったらいいのかわからないので、何も言えないのです。とりあえずこの場で言わせてもらいます。(笑い)

小林　私がいつも買物に行く所は横浜とか渋谷、藤沢とけっこう大きなお店が並んでいる所ですが、逗子は若い人が洋服を買うといった大きな所が1軒もないのです。自分として好みの洋服があるといった店がない。もっと大きいお店がたくさんできたらいいなと思う時があります。

小阪　僕は本が好きでよく本屋に行くのですが、その時思うのは、横須賀や横浜の本屋に比べると、置いてある本の幅が狭いのです。自分ですごく気に入った本があっても、それが本屋にはない。CDもそうですが、見つからない。ですからあまり逗子市の本屋やCD屋には期待してないのです。もちろん利益を離れたら仕事になりませんけれども、もう少し買う側の気持ちもわかっておいてもらいたいですね。

若者離れの悪循環

大田　図書館について言えば、逗子市の図書館を使うより大学とか学校の図書館を見たほうが速いし、結局そちらから借りています。逗子の図書館は、高齢者の利用が多いから、当然若者が読む本よりか、お年寄りが読む本のほうが多く入る。すると若者は、さらに遠ざかるという悪循環が繰り返されます。その点を改革していかないと、図書館のほうは若者はそんなに使う価値を見出せないと思います。

小阪　逗子の図書館には、期待を満たされたという記憶があまりないのです。だいたい鎌倉の図書館のほうに流れて行く。例えばマンガ見たくても置いてないでしょう。国立国会図書館のように、どんな本でも取り寄せる所ではない限りないわけです。そうすると最初から文字だらけの本というか、それをリクエストするという気も起こらないですよ。

菅　でも、それは需要と供給の関係で、需要がないと本もそろえてもらえない。今でもマンガやCDをそろえている図書館は全国探せばいくらでもあるし、どんな本でも取り寄せてくれるのが公共図書館の役割なのですから、その権利を行使できるのは、やはり逗子市民である君たちの役割になりますよ。

小阪　実際はそうでしょうけれども、いろいろな友達に聞いてみると、そこがわかっていない。どう考えても図書館というと硬いイメージを持っていて、そういうところへ「マンガを購入してください」なんて思いも寄らないでしょうね。そこは誰かが教えてくれることが必要だと思います。

菅　つまり図書館側の逗子市民に対する働きかけも不十分だというわけですね。

小阪　そのとおりです。

田口　僕もいろいろな図書館を見ました。藤沢に行くと図書館の雰囲気として全然入りやすいです。入ったロビーからすぐ中が全部見渡せて、いろいろな本を貸し出している。今は市立図書館でも、CDを貸したりビデオを貸したりするのが当たり前になっているのですが、逗子ではそういう若者向けのメディアの貸し出しをあまりやってない。この図書館ホールも、逗子の中心にありながら体育館も含めて全部老朽化しているわけです。だから、

小阪さん

一度全部潰して新しい施設、複合の施設にして、文化もできる、教育もできる、体育や保健もできるというような施設で、日常的にスーッと入れるような場所にするわけです。図書館も複合にして新しくして入りやすくする。CDもマンガもあってホールもある。高齢者ともふれあえる。地下は駐車場にして、まちの中心部に入る人はそこに車を置き、あとは歩くとか、そうなればいいなと思っています。

菅　構想が出てきましたね。東京の中野区には生涯学習センターという、まさに今田口君が言ったそのままの姿でできているし、これから各地にもできてくると思うから、決して逗子にとって絵に描いた餅ではなくて、近い将来に実現性が望めるものだと思います。

待っているだけでは変わらない

小阪　今の意見につけ加えさせてもらいます。逗子市の場合、施設のことよりも今、どんなことができるのかを知っている10代の若者は少ないと思う。例えば市に向かってどう呼びかければ、どんなことをやってくれるのかつかめないし、そういう情報がどこで入るかもわかりません。結局行政からどんどん離れて行ってしまう。われわれとしては、まずどのようなことをやってくれるかアピールしてもらわないと、10代の若者としては要求することもできません。市のほうから聞く機会を作ってくれないと、こちらからは注文がつけられないと思います。

菅　行政のほうから若い人に対する働きかけが不足している、だから応えようがないということですか。

田口　今の意見には反対です。行政というのは、多分自分から面倒なことはやりたがらないでしょう。だから自分から突っ込んでいくしかないのです。自分で市を使ってやろうという気で、「これもできるでしょう、やってくださいよ」と言わない限り、行政は動かないと思います。何かやってくれることを期待していたのでは、いつまでたっても動かないのではないか。やはり若さの特権を利用して、わけのわからないことでもともかく言ってみる。市役所でタライ回しにされても、繰り返し食いついて行くことによって、そういう体質も変わってくるのではないかと思います。(笑い)

小阪　今の10代の若者の中で、田口さんのような人は少ないです。(笑い)ゼロと言っていいほど少ない。少なくとも僕の友達の中にはいない。

田口　反論させていただきますが、だから若者の意識を変革しなければいけないわけですよ。今の話を聞いていると、非常に受動的な感じを持ちます。若いのだから何やっても恥ではない、まずやってみることがいちばんいいのではないか。これだってやれるはずだということを言っていったほうが、絶対自分たちにとってもおもしろい行政、逗子市になっていくと思う。

子供の挑戦を止める親

小阪　実際そう思うんですが、まず自分らが育ってきた世代がすでに高度経済成長の、満たされた時代でした。だからそういう場がまず基本的になかったこと。もう一つは、そういう子供の冒険する気が起こっても、それを止める親がいるわけです。(笑い) そういう親の行動がやる気なさをつくりだす原因のひとつだと思うのです。

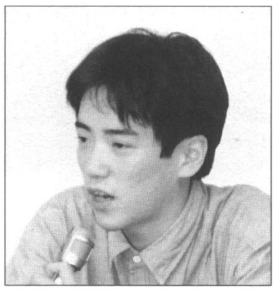
大田　今の意見について言わせてもらいます。本当のことを言えば、若者に限らず一般市民でも、市の行政について真剣に考えている人の数は非常に少ないです。実際はそちらのほうが問題であって、行政に参加しようとしても、止める親がいるといった変な状況がある。ですから、この会場の方がたとか、もっとりっぱな方がいっぱいいますので、そういう人が、もっと周りの人に行政について参加するように働きかけてもらえばいいのだと思います。(笑い)

菅　一般市民が行政に無関心なのだと言う。けれども、大人がそうだからオレたちもそうだというのではまずいでしょ。そのためにシンポジウムをやっているわけですから。

田口　今の2人の意見に対する反論ですが、僕は積極的に行政に参加しています。40周年記念事業の実行委員会に参加したり、都市憲章の委員会にも出席していますが、それは僕の意識が高いからだと言ってしまったらお終いなんです。若者や学生のうちは時間がかなり自由になるわけですから、その分を行動力で生かしていく。自分が動かないと世間は変わらないわけですから。待っているだけではいつまでたっても変わらないと思います。

いつの時代も社会がおかしくなると、若者は「何かおかしいぞ」と言って動きだすのが今までの社会の例だった。それが今では無気力な若者たちが増えていると言われています。そういう時に社会がおかしい方向へどんどん走って行ったわけで、若者が「おかしい」と言い始めないとどうなってしまうか。それを考えると怖いと思う。

大田　実際は暇を持てあましている人間はかなり多いと思います。それが市の行政に参加しないのは、自分が参加しても大して変化がないだろうという諦めの心がある



大田さん

からです。池子の問題にしても一応市民運動を数多くやりました。けれども結局建ちますし、そういう諦めムードが多少あると思います。そちらのほうをもっと効果的にやったほうがいいと思います。

田口　ですからそれを言っていると変に大人びてきて、それでは、結局おじさんたちが「何も変わらないよ」と諦めてボーッとしているのと全然変わらないわけです。(笑い) そういうことになると僕ら若者の立場というのはどうなるのか。1億総大人になったらどうなるか。社会は停滞してしまうと思います。そうではなくて、暇のある人がいると言うなら、若者なりの発想で「何かおかしいじゃないか」「こういうこともできるはずだ」と言って行政に参加する。逗子は市民運動も含めて市民自治ということで10何年もやってきたまちですから、多少変わる余地はあるでしょう。市民が動けば何か変わる、変われるということを示したのが、この12年間の市民運動の結果なのではないかと僕は思っています。

市民としての権利と義務

小阪　市民の意思の持ち方が重要だと思う。大田君が言うように、周りはすでに「どんなに自分たちがあがいてみても〝ゴマメの歯ぎしり〟だ」と言う。何回も何回もの敗北の歴史がそういう気風をつくりだしているようです。そうではない、頑張りようによっては何とかなるものだという意識を皆が持つようにすること、これがまず第一歩だと思います。

田口　行政というのは市民の税金で動いているわけです。行政の職員も市民にある意味で食わせてもらっている。だから行政は市民に働きかけなければいけないし、市民は納税者意識を持って「自分の税金が何に使われているか口出しさせろ」という意識を持つことが大事だと思うのです。

海外の例を持ち出すのは好きではないですが、特に僕のいたスイスでは、例えば首都のベルン州では、予算案をつくった時点で、必ず自治体は税金の使い道を市民に公表しなければいけないのです。それに市民の文句なり要望なりを付け、議会で修正したうえで承認するわけです。やはり納税者意識が高いと思います。

だから行政側は、市民が何か要望してきたら、自分らが食わせてもらっているのだからそれを聞くべきだし、市民側は行政側に「こうしろ」という意見を出す。両方からの働きかけが大事だと思います。

大田　もちろん、自分が納税者であるという意識も持つことは大事なことです。ただそれを誤解して、例えばゴミの収拾場所がすごく汚いとする。なかには自分は納税者だからここに置いておけばいいと思って、袋もきちんと閉めないでパッと車から放り投げるという話を聞いたことがありますが、そういう意味での納税者ではないはずで、その点は住民の気持ちの持ち方なわけです。この納税者という意識をどういうふうな意識にしていくかです。

菅　市民としての権利があると同時に、その裏腹で市民として果たすべき義務という当然のルールがあるわけで、それを納税者ということで一方的に権利だけ主張してはいけないわけです。それは若い人たちが、これから身をもって示していくということで、逗子の市民生活を変えていく大きな力になると思いますね。

若い力を生かすまちづくり

小阪　今、税金の話が出たのですが、多くの人びとは、税金を払うことによって得られる権利よりも、むしろ義務として受け止めていて、絶対に払わなければいけないものであるという考えのほうが強くて、仕方ないから払っておこうという意識のほうが強いと思うのです。この考え方を改革していかないといけないのではないかと思います。

小林　若い人が意見を言えばいいと田口さんが言いましたが、きょうのような催しがあるということを知らない10代の人がたくさんいると思います。「広報ずし」などには載っているかもしれませんが、そういうところを見る人は少ないと思うので、逗子に対してどのように希望を言っていいのかもわからない10代の人に、もっと知らせればいいと思います。

菅　そろそろまとめにしたいと思いますが、きょうのパネルディスカッションで4人の方に逗子の若者を代表してもらいましたが、お聞きしていて、非常に生きいきした若者が逗子の市内にもいて、明るい未来が、この人たちの発言の中に見受けられたと思います。

どちらかというと逗子というのはお年寄りのまちというと語弊がありますが、静かなイメージを持っていたわけですが、逗子のまちづくりはこれからだと思います。ぜひこういった若い人たちをまちづくりの活動の中に離さないよう、しっかりつかまえて、息の長い活動を進めていただくことが大切なのではないかという印象を持ちました。

〈シンポジウム(第1回・第2回)の担当は、シンポジウム部会〉

市制40周年記念第2回シンポジウム

1994年9月18日(日) 逗子小学校体育館

子どもとスポーツ
子どものためのスポーツ環境とは

長い間子どものスポーツ指導にボランティアで取り組んでいるみなさんを中心に、子どもとスポーツと地域について、活発な話し合いが展開されました。その中から印象に残ったことばをいくつかご紹介します。

パネリスト
最首 祥互／小坪少年サッカークラブ代表
東　弘之／少年野球小坪トータス代表
横瀬　徹／ミニバスケットボール久木レイカーズ代表
清　久恵／会社員
深田 晴江／県立高等学校養護教諭
コーディネーター
東海 邦彦／逗子市青少年指導員

●子どものスポーツを通して地域とのかかわりができたことは、とてもうれしいことでした。
●一生スポーツを愛し、楽しめる人間になれるよう、指導していきたいと思います。
●子どもの顔を見ると、「やめよう」と言えなくなってしまう。
●今、子どものスポーツで人気のあるのは、男子はサッカーと野球、女子はミニバスケットですね。低学年のうちは水泳を習っている子も多い。
●学校の部活はとても厳しいもので、1年生のときは全然ボールを打たせてもらえなかった。
●自分も辛いけど、みんなも辛いんだなという気持ちから努力をし、それが自信にもつながりました。
●生徒の数が減ると、先生の人数も減らされます。しかし希望者がいる以上部活をつぶすわけにはいきませんから、ルールがわからなくても顧問を引き受けなければならないのです。
●スポーツ団体に入ると縦割ですから、それが子どもにとって将来大きな影響を与えるんじゃないですか。
●学校の部活を終えて家へたどり着くのが精いっぱい。夕食を食べながら眠ってしまうという状態です。学校の部活は、練習が楽しいとか、魅力があるとかということは全くありませんでした。それはただいい結果を残すこと以外の何ごとでもなかった。
●小学生を相手に、ただ勝つだけの指導はしたくありませんね。
●地域のスポーツと、学校の部活や体育。それがうまくつながっていないところに問題がありますね。
●試合に勝ったときの子どもたちのあのすばらしい笑顔。休日返上の大変さもふっとんでしまいます。
●スポーツの語源は中世ラテン語の「向こうへ運ぶ」という意味だったらしい。つまり気晴しとか遊びですね。
●今の子どもたちに競争心は少ない。スポーツを通して葛藤しながら育っていってほしい。
●執着心がないというか、諦めがはやい。
●しっかりした食事、栄養バランスと、科学的で安全なスポーツ指導が必要ですね。
●とにかくグラウンドや体育館など、練習の場が足りない。
●自由に遊べる広場や運動場がもっとほしい。
●学校などの施設開放も、もう少し有効に活用できるように検討してもらいたい。

3 まちづくりに関する市民の意識

「まちづくりに関する市民意識調査報告書」より

まちづくりについて、市民はどのような意識や要望をもっているのでしょうか。1991年7月に実施された「まちづくりに関する市民意識調査」から、その主要部分をご紹介しましょう。

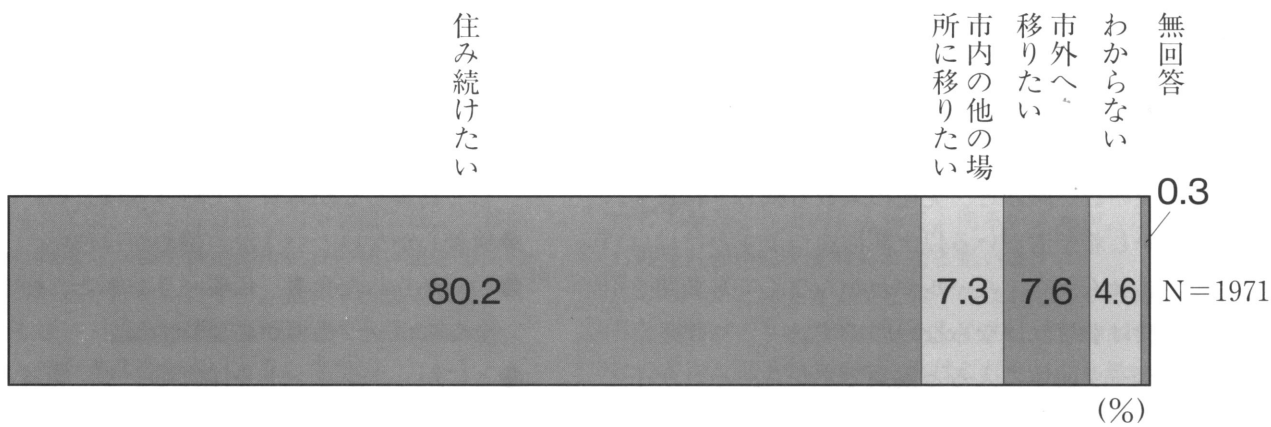
1.調査目的

市が効率的、計画的に行政を進めるうえで市政の各分野における市民の意向・要望を把握し、今後の施策に反映させるための資料とする。なお、今回の調査は、総合計画基本計画改定のための基礎資料として活用する。

2.調査の設計

(1)調査地域　逗子市全域
(2)調査対象　18歳以上の男女
(3)標 本 数　3,000人
(4)抽出方法　等間隔抽出
(5)母 集 団　逗子市住民基本台帳
(6)調査方法　郵送配布－郵送回収
(7)調査期間　1991年(平成3年)7月1日～12日
(8)回収結果　有効回収数1,971(有効回収率65.7%)

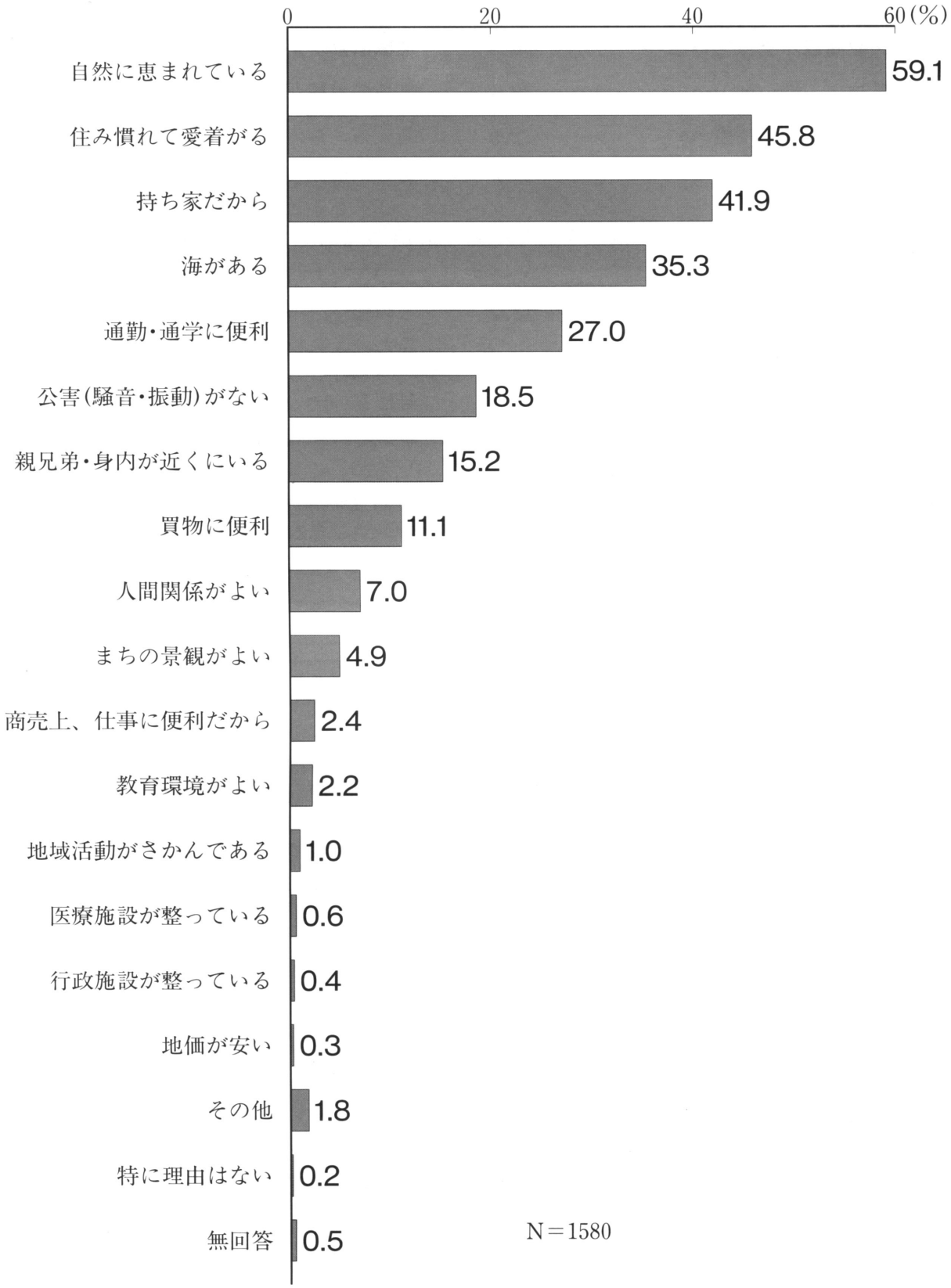
問1　あなたは、今お住まいの場所に今後も住み続けたいと思いますか。



今後も「住み続けたい」と思っている人は80.2%と極めて高い定住意向が示された。これに「市内の他の場所に移りたい」人を加えた逗子市内定住派は9割近くを占める。一方、「市外へ移りたい」は7.6%である。

（問１で「住み続けたい」と答えた方に）

問1-1 住み続けたい理由を、次の中から３つ以内で選んでください。(M.A.)



住み続けたい理由としては、「自然に恵まれている」が59.1%で最も多く、次いで「住み慣れて愛着がある」(45.8%)、「持ち家だから」(41.9%)、「海がある」(35.3%)、「通勤・通学に便利」(27.0%)などが上位を占める。

（問１で「市内の他の場所に移りたい」「市外へ移りたい」と答えた方に）

問1-2　他の地域に移りたい理由を、次の中から3つ以内で選んでください。(M.A.)

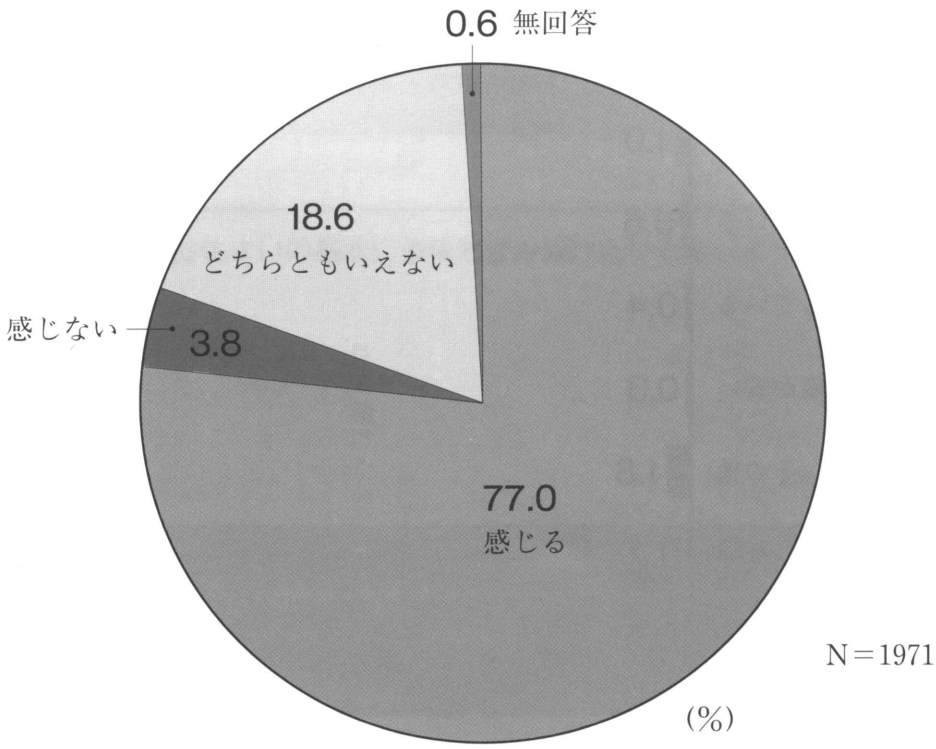
(%)

医療施設が整っていない	36.3	地域活動が不活発である	6.5
買物に不便	30.1	まちの景観がよくない	6.2
通勤・通学に不便	22.9	親兄弟・身内が近くにいない	4.5
借家だから	17.1	教育環境が悪い	3.1
違うところに住んでみたい	15.1	商業上、仕事に不便だから	2.7
公害（騒音・振動）がひどい	14.4	自然に恵まれていない	1.7
地価が高い	13.7	その他	22.9
行政施設が整っていない	13.7	特に理由はない	0.3
人間関係がよくない	11.3	無回答	0.7

N＝292

他の地域に移りたい理由としては、「医療施設が整っていない」が36.3%で最も多く、次いで「買物に不便」(30.1%)、「通勤・通学に不便」(22.9%)、「借家だから」(17.1%)、「違うところに住んでみたい」(15.1%)などが上位にあげられているが、以下もわずかな差で続いている。

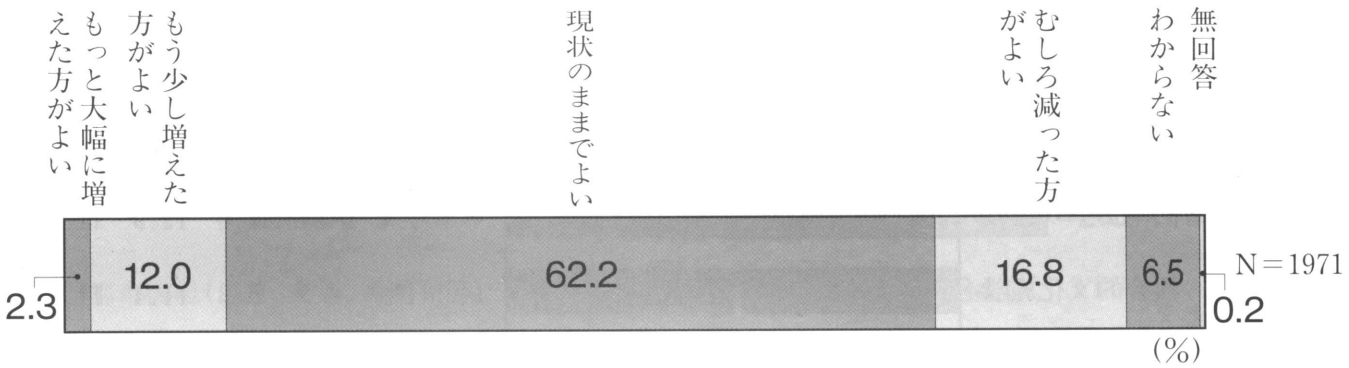
問2　あなたは、いま住んでいる逗子市に愛着をお感じになりますか。



逗子市に対する愛着については、愛着を「感じる」人は77.0%と８割に近い。一方、「感じない」はわずか3.8%で「どちらともいえない」が18.6%を占める。

問3

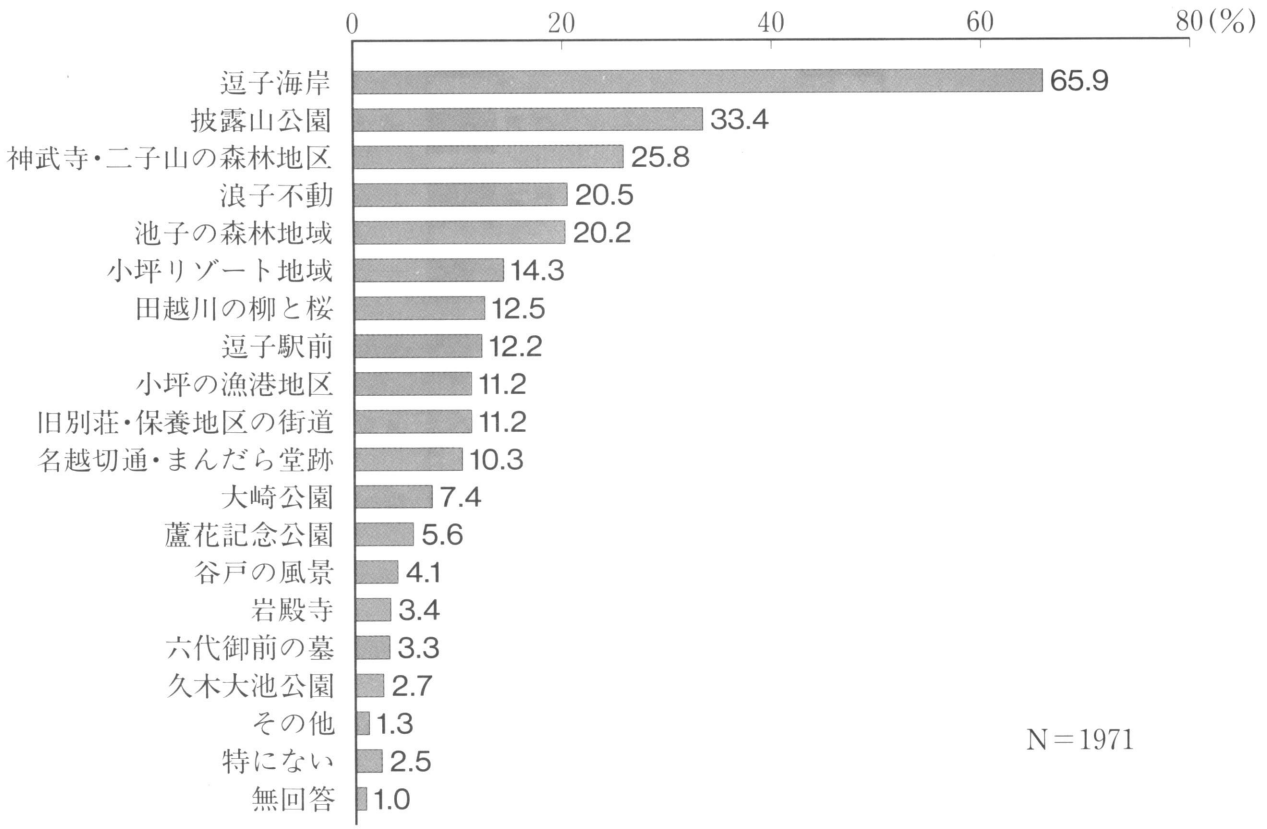
逗子市の人口は現在５万７千人程度です。本市の将来の人口規模について、あなたは、どうお考えになりますか。次の中から１つだけ選んでください。



将来の人口規模としては、「現状のままでよい」が62.2%と最も多く、人口増加に賛意を示した人は14.3%(「もっと大幅に増えた方がよい」2.3%と「もう少し増えた方がよい」12.0%)、「むしろ減った方がよい」が16.8%である。逗子市の人口の推移は停滞的に推移しており、こうした現状を肯定的に受け止めている人が多いといえよう。

問4

あなたが逗子らしいと感じる風景や場所はどんなところですか。次の中から主なものを３つ以内で選んでください。(M.A.)



逗子らしいと感じる風景などをあげてもらったところ「逗子海岸」が65.9%と圧倒的に多い。次いで「披露山公園(33.4%)、「神武寺・二子山の森林地区」(25.8%)、「浪子不動」(20.5%)、「池子の森林地域」(20.2%)と続き、以下は上図の通りである。

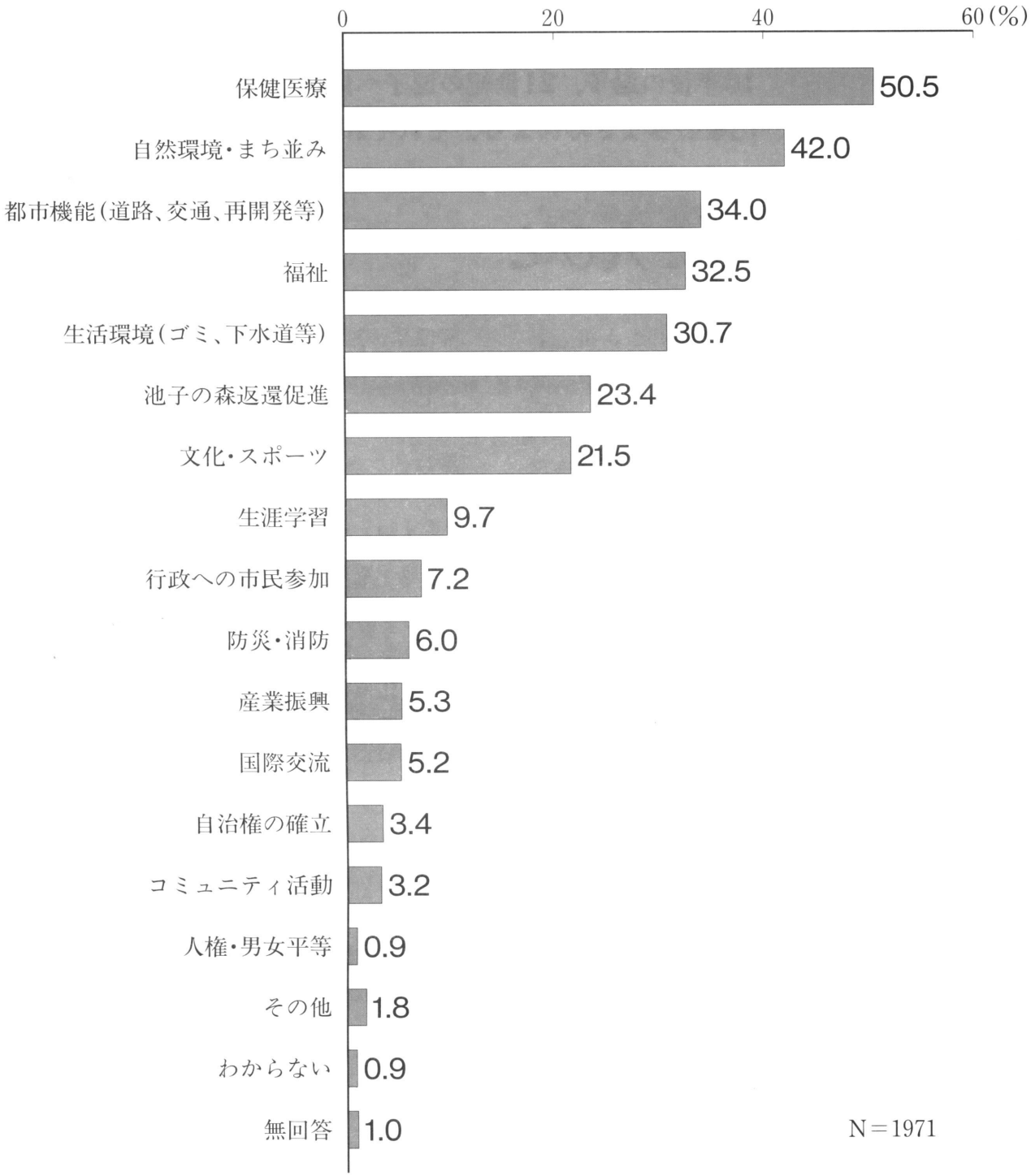
問5

市にはさまざまな公共施設がありますが、今後、ぜひ整備してほしい中心施設は何ですか。優先順位の高い順に上位３位まで選びその番号を記入してください。(M.A.)

整備してほしい公共の中心施設について１位から３位までの優先順位をつけて選択してもらったところ、１位としてあげられた中では「総合病院」が56.5％と圧倒的に多く他の施設を大きく引きはなしている。
１位から３位までにあげられた比率の合計でみても「総合病院」の要望は極めて高く77.1％とほぼ10人のうち８人が整備を求めている。以下は「複合的スポーツ施設」(31.1％)、「複合的文化施設」(28.3％)、「緑地公園」(26.9％)、「老人福祉施設」(26.2％)が差なく続いている。

問6

逗子市をよりいっそう住みよいまちにするためには、今後どのような施策に力を入れる必要があると思いますか。次の中から３つ以内で選んでください。(M.A.)



住みよいまちにするための重点施策としては、「保健医療」が50.5%とトップであり先にみた整備してほしい中心施設(問５)で「総合病院」が最も多かった結果と連動していると言えよう。次いで、「自然環境・まち並み」(42.0%)、「都市機能(道路、交通、再開発等)」(34.0%)、「福祉」(32.5%)、「生活環境(ゴミ、下水道等)」(30.7%)などが続いている。

4 私たちの展望と提案

市内在住の専門家の提言

10年後の逗子、21世紀の逗子へ向けて、市内在住の各分野の専門家のみなさんによる、それぞれの立場からの提言です。

新しい逗子と人びと

伊藤 一美 逗子市教育研究所長、戦国史研究会委員、神奈川地域史研究会委員（市内小坪在住）

1 ある朝

「落ちついた路地ですね。」

「ええ。生け垣やかなり大きな木が繁っていいですよ。」

「それに、電信柱もなくて、すっきりしている。」

「季節がくると、それはもう、うきうきしてきますよ。」

「鳥の声も聞こえる。」

いつからだろうか。地域の人びととこんな挨拶を交わすことができるようになったのは。

逗子に住むようになって、いま改めて、身の回りを見渡してみた。ずっと前からここに住んでいる方がこの住まいの雰囲気を大切にしていられることは、その軽やかな声から知ることができる。つい、最近ここに来られた方もまた、こうした思いに自然と吸い込まれていっているようだ。

2 歴史を踏まえた施設

「逗子」という地名は、実は「辻子」からきています。つまり、さまざまな人びとの行き交いがその起源です。古東海道も市内を通過していました。飯島には、現存最古の鎌倉時代の港「和賀江島」もあります。田越川は『平家物語』『承久記』に見えるほど、著名な川です。そして、「池子遺跡群」からの多数の出土品は当地の全歴史を目の当たりにしてくれました。

こうした歴史を踏まえて、海浜地区に「海の歴史文化博物館」が設置されています。古代から未来までの人びとの交流のあり方を考えさせるものです。また、駅前の旧小字「馬場」に因み、ここから「馬」を利用し、また、徒歩の方がたが安全にそしてゆったりと楽しめる、「古道」を基礎にした「遊歩道」が設置されます。山ノ根・沼間・桜山・池子方面へは山の道、新宿・小坪方面は海岸道と山の道。どれをとっても四季の楽しみがあります。

3 わがまちの姿

「海の明るさと歴史の重さを感じさせる町ですね。一人ひとりが誇りを持っている。」

「そうです。建物のみならず町並み自体の歴史を大切にしているからです。」

「互いの個性を尊重しながら、町としての調和を基本にします。」

今の生き方を一人ひとりが真剣に模索しつつ、次代の子供たちに立派に伝えていくことが、逗子の個性ある文化を築く礎と思います。

10年先の逗子の医療関係の展望と提言

伊奈　正　伊奈外科医院院長、逗葉医師会理事、逗葉地域医療センター理事（市内逗子在住）

保健機関

A）　疾病の早期発見

ホームドクターおよび地域医療センター活用により、住民の健康診断を広げ、病気の早期発見に努める。特に成人病（高血圧、がん、糖尿病、高脂血症等）の対策を充実させる。

H.I.V(エイズ)対策も、今後10年のうちに飛躍的な発展が切望されている。

B）　老人病対策

⑴　老人病に関しては、ファミリードクターが中心となって、対策を講じることが望ましい。その中には栄養士、保健婦、看護婦等の連係が必要で、すでに活動している在宅訪問看護ステーション、介護支援センター、給食支援機関、などの発展が期待されている。

⑵　池子の病院用地に、特別養護老人ホーム、老人保健施設、長期滞在型の老人病院などを、既存施設との分担を考えながら建設して、充実した老人医療への進展が求められるでありましょう。

医療機関

A）　急病対策

⑴　二次医療（入院を要するもの）と三次医療（高度の専門知識と施設を要求される）については、当地の人口程度では、建設することはなんとかなっても、その維持、経営には多額なランニングコストを必要とすることは、他都市の既存の医療機関（特に総合病院）の現状をよく参考にして考えねばならないでしょう。私としては、横須賀市を中心とした横三地区はもちろん、鎌倉、横浜の隣接地区を視野に入れた広域医療圏の設定と、患者の緊急輸送手段の充実をはかることがより現実的であると考えています。県もこの考えと類似した設定を進めています。現在逗子には、すでに救急救命士の乗った高規格救急車の配備は終了していますが、道路行政とあわせて、さらなる充実が望まれております。

⑵　第一次救急医療

現在休日の昼間と、全日無休の準夜間（8時～11時）を、内科系は池子にある地域医療センターで、外科は逗子、葉山地区の外科系医院の在宅輪番制が行われています。今後何年かのうちには、おそらく池子に新地域医療センターが建設されて、内科医と外科医の協力診療態勢もでき、さらには歯科医、薬剤師の方がたの救急態勢がとれるようになれることを望んでいます。夜の11時から翌朝までの深夜救急については、地域医療センターで実施する予定ですが、それが発足する前の暫定的処置として、既存の市、町内病院の輪番に頼るのが、たいへん効率的で、市民の税金からの負担も少なくてすむ方法であると思っています。

B）　医療と通信

医療機関どうしはもちろん、患者と医師の間の通信は現在日進月歩を続けております。患者自身が望めば、自分の過去の検査データー等が短時間で手に入れる時代がすぐそこまで来ているようであります。今後10年でどのように発展していくのか？　私には正直のところわかりません。楽しみにして待ちたいと思っております。

誰もが通るこの道。避けて通れないこの道。されば豊かで不安のない道に。

押川 泰夫 特養老人ホーム逗子ホームせせらぎ施設長（市内桜山在住）

人びとのすべてが長寿を願い、そのためあらゆる努力を続け、今日の社会を築きあげてきたのである。別の視点から見ると、そのために経済があり、政治・科学・教育・医学があるといっても過言ではない。世界一の長寿国となった日本は、いわば世界一幸せな国民であるといってよいのである。

さて日本の長寿を21世紀に向かって展望するとき、必ずしも楽観は許されない。なぜなら、日本の高齢化の速度が世界のそれに比べて類をみないほどの速さで進んでいるからである。そのため未解決の課題が山積していることを見逃すことができない。

国が21世紀に向けて高齢化対策としてゴールドプランを発表してから、わずか５年で質・量とも見直しの必要性に迫られ、再度新ゴールドプランの発表が計画されている。

こうした実情から推定しても、いかに高齢化の課題が緊急的であるか容易に察知できる。であるから、より確実なデーターのもとで計画の見直しをするべきである。

国はすでに見直しの段階に入り、新たな計画を発表している。が、最も身近な現場で常時多くの課題を抱える市町村でなぜ見直しをしないのか。その熱意も姿勢も見受けられない。政治も行政も、全くその気配さえ感じられない。果たして現状のままで21世紀が迎えられるのか。

一方、市制施行40周年を迎えた記念事業についてであるが、当然ながらすべて前向きな姿勢で、今行わなければならない最重要課題について積極的に取り組んでいただきたい。申すまでもなく、21世紀に必然的に到来する介護問題について真向から立ち向かい、誰もが通らなければならないこの道を、幸せで安らかなものにするための事業に大胆に取り組むことが最も今日的な姿である。「共に生きる心豊かな福祉社会づくり」がその基本的な目標である。

さて、この基本的な目標を達成するための具体的な内容であるが、それは、逗子市が明らかにした福祉プランの実践にほかならない。一方、今我われに求められていることは、高齢者の人権と生命の尊厳を守ることである。具体的には、個々の高齢者の福祉を受ける権利を保障することである。そのことは、生命の尊厳と人権を守ることにほかならない。現実に、高齢化は確実にしかも急速に進んでいる。年内には18パーセントを超え、21世紀には20パーセントに達し、さらに伸びることも確実に予想される。

高齢化の進展はますます拡大する反面、重度介護者もまた同様に激増するものと考えられる。さらに加えて、家庭介護力が激減する傾向にあり、一方、超高齢化社会では、介護する者がすでに70歳代を超える極めて困難な状況になり、これらの介護力に期待することは不可能である。従来日本の美徳とされてきた家庭介護から、今日求められている社会介護に転換せざるを得ないのが現実である。

現に施設入所を希望しながらも、それができない待機者が50名以上にも達していると推計される。これらの家庭では、介護力の疲労が限度に達しながらも必至で頑張り続けているが、それも続けられず家庭崩壊に追い込まれるケースが増加しているといわれる。

さらに、高齢者に必然的に生ずる痴呆症の発生であるが、80歳以上に達すると20パーセント以上といわれている。高齢は誰もが通らなければならない道、それゆえに全市民が関心を持ち、公民があげて、誰もが安心して通れる道づくりをすることが、最も緊急を要する記念事業であると考える。市内における社会福祉施設への入所も極めて困難であり、待機期間が１年～１年半を要し、それでも期待できないのが現実の姿である。

福祉プランは、美辞麗句を数多く並べ莫大な予算を投入しながらも、現実の最も必要な、高齢者の社会保障を受ける権利を守り、人間の生命を守る究極の目的には、何の意味を持たない状況になるのではと、苦慮されることろである。

真の意味の文化都市とは、人間を等しく愛し人間の生命と人権を守ることが基本であり、それは単なる美辞麗句であってはならない。現実の場で実践されることにより、文化都市として実証できることになる。

明日といわず、今日から、今求められている高齢者対策としての介護の課題に全力をあげて取り組む、この取り組みこそが、50周年記念事業として最も意義あるものと確信し、心から提言する。

健康都市としてアピールできる逗子に

川嶋 英夫 逗子ハイランド一歩の会代表、元逗子ハイランドまちづくり会会長（市内久木在住）

放置山林を市民の健康増進の場として活用する運動の推進

逗子市の6割は緑に覆われているが、そのほとんどは放置山林で、人が入り込めないほど荒廃し尽くしているのが現状である。矢竹が密生し、アオキなどの日陰植物や、クズ、カズラなどの蔓性植物がはびこり、山菜や茸も生えず、蝶々も昆虫もいない薮山ばかりになっている。山の持ち主も山の手入れをしなくなってしまい山林の荒廃は進むばかりだ。

私たちハイランドの有志は、「千里の道を一歩から」という願いを込めて、「一歩の会」を結成し、「放置山林を、高齢者の生き甲斐づくりと健康増進に役立てる活動」を始めているが、このようなボランティア活動の輪を大きく広げていくためには、山林の所有者と、行政と、住民が一体となって、この問題に取り組む必要がある。

逗子市の代表的なハイキングコースである披露山から浪子不動へ下る道や、神武寺から鷹取山へ行く道も荒れたままだ。高齢者や子供でも安心して歩ける道に整備する必要がある。

緑地が道路で分断されているところには、歩道橋をかけて山の道をつなぎ、池子の森が返還されたなら、逗子市を周遊できる遊歩道やハイキンクコースを完成させ、健康都市としてアピールできる逗子市にしたいものである。

田越川に高速水上バスの発着所をつくる

田越川を逗子橋のあたりまで浚渫し、葉山、城ヶ島、鎌倉（滑川）、江ノ島などへ通う高速水上バスを運行する計画を立て実現させる。陸上交通の行き詰まりを解消する一助にもなるし、年間2000万人はあるという鎌倉を訪れる観光客の何割かを、逗子に呼び込むことも夢ではない。逗子の商店街にも洒落た店が増え、町の活性化にも大きく貢献するはずだ。

逗子海岸の道路も海側に大きく広げて、その下を洒落たレストランや駐車場にするという計画も検討する必要がある。逗子海岸と逗子周遊ハイキングコースを整備することによって、四季を通じて多くの人びとが訪れる、明るい海と美しい緑のキャッチフレーズにふさわしい健康都市にすることができる。

この計画には、逗子市ばかりでなく、京浜急行電鉄の果たす役割も大きい。

久木地域に住民センターを

1994年4月、逗子市に提出した「逗子ハイランド地区地域計画報告書」のなかでも提言してあるが、久木地域に住民センターの建設が急務である。住民センターは、市民が集い楽しみ、学び合い、育て合い、助け合い、健康をつくり、情報を伝え合う場所として、幅の広い役割をもつ施設である。

市民がゆたかな人生を送れるよう、市が市民のために設置しなければならぬ基本的な施設のひとつではないだろうか。逗子市には、小坪と沼間に公民館。池子に高齢者センター。逗子地域には図書館ホールなどがあるが、久木地域の住民は交通不便のため、ほとんど利用することができない。

逗子市で、住民センターの建設がもっとも急がれるのは久木地域であることを改めて強調しておきたいと思う。

自然への忘れもの

高島 俊二 逗子市立池子小学校教頭（市内沼間在住）

逗子市は一方を相模湾に、三方を丘陵に囲まれ、温暖で豊かな自然に抱かれた住宅都市である。

思い起こしてみると、その豊かな自然が刻々と失われようとしていた昭和49年４月、私達は進むべき方向を「青い海とみどり豊かな平和都市」と、都市宣言し、平成５年度来、逗子市総合計画に基づく様々な施策を展開してきた。

そして今、市制40周年を迎え、あらためて四囲に広がる豊かな逗子の自然の姿を目の当たりにしてみると、このかけがえのない自然の姿をしっかり後世に引き継がなければいけないと強く思うこのごろである。

「自然と調和したまちづくり」結構である。「自然と調和する豊かな都市景観の創造」、ぜひそうあって欲しいと思う。それは、人間の都合のみを最優先にしすぎてきた反省か、「自然」という言葉の響きの良さからか、素直に受けとめられ、また心地よくさえ感じられる。

にもかかわらず、ふと、どこか忘れている物があるように不安を感じるのである。その不安とは、どうも、大切なことと言いながら他人任せで、どこかひと事のように受け取っているところと、身近な自然に日々接しているものの、その身近な自然を理解せずして自然を語っているのではないかと言うところにあるように思うのである。

海には海の、山には山の自然の中で、多種多様な動物や植物が幾世代もの長い時を刻みつつ今を生き続けている。私達もまたその自然の中で生きている一生物でもある。その点からも、あるがままの自然を理解し、様々な関わりを持ちながら共に生きる術を学びとることは大変意味深いことではないだろうか。

幸いなことに、私達をとりまく逗子の地形と気候・地質・植生・水生生物等、様々な分野において既に詳細な調査がなされ、ありのままの逗子の自然の姿が報告されている。

だからこそ、これらの自然の姿をより多くの人たちに知ってもらいたい。そして、様々な関わりを持ちながら豊かな自然が成り立っていることに気付いてもらいたいと思うのである。

そこで、次のような試みを手がけてみてはいかがだろうか。

- 自然の具体的場面を通した啓発活動
- 自然の姿をわかりやすく解説できる指導員の養成
- 多様な自然を観察できる自然観察路網の調査と整備
- 自然観察会の企画と観察グループの育成
- 逗子の自然を学びとるための講座の開設
- 写真、図解入りの逗子の自然観察ハンドブックの作成等

身近に広がる豊かな自然と調和したまちづくりを進めている今、一人ひとりの中に身近な自然に対する意識を高め理解を深めていくことこそが、様々な施策を具現化していく確かな支えとなり、大きな力になると確信するものである。

新しい逗子のまちづくりに向けて

逗子のグランドデザイン

長島 孝一 建築家・都市設計家、逗子市まちづくり懇話会副会長（市内新宿在住）

“逗子100年の計”…まちは市民の作品

わたしたちは自分の家をつくるとき、自分の家族の行く末まで考えて、自分の生活の夢を、家という作品としてつくろうとします。同様に都市もその市民が自分たちの世代を超えて、子孫の幸福をも考えて市民がつくる作品であるはずです。

ヨーロッパの多くの美しい住みやすいまちは、何世紀もの間その市民が愛情をかけ、自分と子孫のための環境づくりへの義務感や責任感、そして市民自治による自前の権利として、また自分たちの未来への夢を託してつくってきた、いわば市民による市民社会の作品です。

都市は常に生きており変化しています。しかしその変化が単に外部からおしつけられた受身の態度の結果であると、無秩序でありながら画一的、多様でありながら没個性のまちになってしまいます。わたしたちは個性が豊かにあり、秩序と多様性と活力のあるまちをつくらねばなりません。そのためにも“逗子100年の計”…通称“逗子グランドデザイン”をつくる必要があります。

私の描いたグランドデザイン的な夢

3年ほど前に、市のまちづくり懇話会の席で、要望に応えて私なりにつくった絵図が何枚かあります。

まず海と川ですが、逗子に子供の時から住んでいた者にとっていちばん残念に思っていることは、鐙摺の磯が埋め立てられて下水処理場になってしまい、あそこから相模湾の絶景が観られなくなったこと。逗子の中でも最も静かで松風と渚の音の聞こえた海岸に湘南道路が通され、逆に最も騒音と、排気ガスが激しく、松も息絶え絶えになったこと、緑に縁取られた田越川が、殺風景なコンクリートの垂直護岸に変わってしまっことです。

そこで鐙摺の下水道プラントの上に新たな人工地盤をつくり、その上を市民の公園、名付けて**富士見公園**にしたい。湘南道路は半地下にしてその上を歩道にするか、砂浜側に幅広い歩道を張り出し、その下を更衣場、手洗い、カフェー、ボート格納庫などに利用。これを“なぎさプロムナード”にしたい。田越川の岸にそって上流から誰でも散歩して富士見公園へ行きつける“田越川プロムナード”をつくりたい。これらが三大水際プロジェクトといえましょう。このほかに磯づたいに浪子不動から小坪へ行ける道もつくりたいと思います。

緑については、市街地をめぐる緑の斜面を景観としてどこまで維持していけるかが、まず大きな課題です。平地の市街地については、宅地内の植樹、屋上や壁面緑化、生け垣づくり、街路樹など、あらゆる手段をこまめに使って“市街地の総合的緑化”を進めたいものです。

景観ということでいうと、市街から海と丘にむけての眺望がほしいと思います。海への眺望の軸は、亀岡八幡宮・市庁舎のあたりから、海岸中央通りを軸とした空間を、鎌倉の若宮大路になぞらえて、**若姫大路**として改造したらどうでしょう。この大路とその縁辺の土地は従来のようにせいぜい2～3階の建物とし、道は拡幅して歩行者を主体とした道づくりを行い、市民や来訪者が市の中心から海岸まで楽しく安全に歩ける、逗子らしい品格をもったシンボリックな道筋としたいものです。

市庁舎あたりを中心として半径300mをマチ圏として、その周辺の環状道路沿いに駐車場を設けることによって、マチ圏の内部は最大限歩行者ゾーン化することができます。これを**マチ圏歩行者ゾーン**と呼びましょう。たとえば逗子銀座通りはバスのみの通行を許し、歩行者を重視した“トランジットモール”にすることが可能でしょう。マチ圏は再開発によって中層（4～5階）建物とし、ヒューマンスケールをもった中心街区としてつくるべきでしょう。ちなみに逗子には高層や超高層の建物は似合わないと思います。

市民の日常生活の最小単位として、半径250mを目安とした生活単位（小字程度）を設定することを提案します。市内全域は24個（一単位当り平均2500人）の、市民どうしのお互いのカオのみえる生活単位で構成することになります。この生活単位の核は、高齢者のデイケアーセンター、集会室、小図書館、青少年ルーム、保育所などの機能をいくつか併せもった小さな**コミュニティーセンター**とし、いろいろの年代の市民の交流を可能とするものであってほしいものです。

市の40周年記念事業の中で、「逗子・夢の未来図」というテーマで小中学生の絵による提案が多数出されました。子供たちの描く明日の逗子は、豊かな自然のあり方と同時に、文明的な便利さというものも取り上げられた想像力豊かで意欲的なものです。

この子供たちが高齢に達する50年後、さらに100年後の逗子は、実際どんなまちになっているでしょう。100年前自分たちのことをここまで考えてくれていたのか、と感心し感謝してくれるようなグランドデザインを、市民皆でつくろうではありませんか。

元に戻る町づくり

林　京子 作家、芥川賞(『祭りの場』)・川端康成賞(『三界の家』)など各賞受賞(市内桜山在住)

東京辺りから訪ねてくる客は、きまって、緑が多いですね、静かですね、といいます。対する私の答えは、「少なくなりました」「うるさくなりました」と否定的です。

私たち家族が逗子に移り住んだのは、市制が施行された、その日でした。引っ越し荷物とともに逗子入りした私たちを、沿道に並んだ小学生たちが、手づくりの日の丸の旗で迎えてくれました。もしかすると、市制第１号の住民が、私たちかもしれません。当時は、人口３万を超えたばかりの、光も風も輝いた、理想の住宅地でした。住む場所に逗子を選んだのも、海山の自然があるからでした。

逗子らしさ、を考えますとき、浮かんでくのは光る海と、丘陵地をおおう緑です。そして物静かな町のたたずまい。私は逗子を住む町としてみていますから、自然をぬきにしては考えられません。ですから、「市制50周年への提言」があるとするなら、少なくとも30年前の逗子の町へ戻すこと。ノスタルジアではありません。

『まちづくりに関する市民意識調査』をみましても、「逗子らしいと感じる風景」の１位が、逗子海岸、２位３位、すべて逗子の自然です。「住み続けたい理由」の１位にも、“自然に恵まれているから”が掲げられています。

逗子市を逗子らしく機能させることは、桜貝が拾えた白い砂浜の海や緑をこわさないで、いかに人が、この自然のなかに住まわせてもらうか、ということではないでしょうか。「逗子らしさ」のなかに“逗子駅前”があげられています。私も小さな公園がある逗子の駅前風景が、大好きでした。桜の花が咲き、夏には蟬しぐれが降る掌ほどの公園は、自然を主体に町づくりをすすめる逗子市の姿勢として、受けていました。子供を育てていたころ、あの緑のなかに２時間・３時間と短い時間、子供を預かってくれる、可愛い市営託児所があるといいな、と眺めながら駅を利用したものです。家事に追われる主婦たちが、暫しの休息のために子供を託して、買い物や映画を観に出かける。そして晴々と子供を抱いて、家庭へ戻っていく――。ささやかな福祉への夢でした。

目下工事中の駅前風景が、逗子市の将来への足掛かりだとすると、悪い予感がします。逗子は人口５万が限度の、住宅地だと私は思います。大都市の駅前を逗子に持ち込んでも、町のバランスは崩れます。鎌倉が鎌倉である所以、葉山が海の町として親しまれているのも、町独自の色彩が受け継がれているからでしょう。旧いものすべてよし、では決してありません。逗子市役所の１階ロビーは、市民中心の町として、暖かい雰囲気があります。

大地をコンクリートで塗り潰す町づくりは、簡単でしょう。

元に戻る、勇気ある後退は、如何でしょう。医療設備が整った自然のなかに在る町、子供を育てる時期にある若い家庭にも、高齢化社会にも、必要なことではないでしょうか。

太陽のあかるさ、あたたかさをテーマに

宮野　澄 マーケティング会社経営、日本ペンクラブ委員、雑誌編集長（市内久木在住）

都市には、その町ならではの個性がある。隣接する鎌倉は、“古都”とよばれている。逗子は、“いい町”といわれてはいるが、個性となると具体性には乏しい。

住民にとっては、自然に恵まれた閑静な住宅地という印象がつよいが、これは個性とはいいにくい。

観光資源もないわけではないが、観光公害を考えると訴求ポイントにするには問題が生ずる。そこで、ひとつの提案として“太陽”のもつ“あかるさ、あたたかさ”を主材にして考えてみたい。

まず逗子駅前を考えてみると、ロータリーが撤去され整備が進んだとはいえ、無味であたたかさに乏しい。夜間もあかるさを保つ意味で、交通に支障のない位置に、市の木であるツバキをあしらったミニシンボルタワーを設置して、乗降客を和ませたらと思う。

次に、現在住民が馴染んでいる池田通りの名称を“椿通り”に改め、汚れたアーケードも椿をあしらったものにし、舗装のタイルのデザインも椿の絵柄にする。

さらに、逗子の自然だよりとして、逗子海岸の波の花、ハイランドの桜並木などの見頃の景観を映像によって、駅前の目につく所にワイド画面で昼夜情報提供する。

逗子といえば、住民の6割以上が海を挙げている点から見て、逗子海岸の整備、清掃に努めるべきことはいうまでもない。

とくに海水浴客が集中する夏期、市営の海水浴客収容の施設の拡充整備はいうまでもない。四季を通じて海岸線の美しさを保持するためには、並木など手を加えるべきではない。

文化遺産の維持・保存には、いっそうの充実を図るべきである。ともすれば風化する傾向にあるからだ。史実・史跡などの掲示はデザインに工夫がないので、映像時代にふさわしく、絵巻風な処理が望ましい。

案内表示にも親切さが欠けるので、できるだけ小まめに目立つものがよい。

今後は、とくに高齢化が進むと思われるので、休息の施設の整理充実が望ましい。広場の確保、ベンチの増設は欠かせないことであろう。ただベンチなどの場合、腰かけて疲れない心くばりをすべきである。

高齢化社会必至の趨勢でいえば、医療施設とくに緊急医療の対応について、十分な検討を怠ってはならない。

文化施設、体育施設の充実に一般には走りがちであるが、未だかつてない高齢化社会を考えて、基本的なことから対策を練るべきである。細かいことからいえば、安息のスペースにはトイレも常設しておかなければならないようなことである。

ひとくちに住みよいといっても、滞留人口の増えることを予測すれば、“味覚”を楽しめる店の指導まで、真剣に考慮する必要があるのである。10年後を予測すれば、人口構成比はまちがいなく高齢化するからだ。

5 実行委員の意識とキーワード提言

市制40周年記念事業実行委員会アンケート結果

市制40年記念事業に実行委員として参加した人たちを対象に、逗子の現状と将来のまちづくりについてのアンケートを実施しました。アンケートは、各委員の意識を定量的に把握する10の設問と、キーワードを引き出すための3つの設問に対するフリーアンサーで構成されています。
それぞれ意識やとらえ方に差異はあっても、まちづくりについての強い意欲や情熱が、うかがえます。
なお、第3部に掲載した「まちづくりに関する市民意識調査」と同一の設問も一部に採用しています。その結果と比較・分析する場合は、調査目的、調査対象、調査時期が異なっている点に、とくに留意する必要があります。

調査のあらまし

1.調査目的
市制40周年記念事業に、実行委員として参加した各委員の意識と、将来のまちづくりに関する提案、要望を把握し、「提言書」掲載のための資料とする。

2.調査対象　市制40周年記念事業実行委員

3.標 本 数　118人

4.有効回収数　67人(有効回収率 56.7%)

5.調査期間　1994年9月20日～1994年10月15日

6.調査方法　留置式(郵送配布－郵送回収)

7.調査実施　市制40周年記念事業実行委員会
広報室50周年提言部会

8.回収結果

〈性別〉

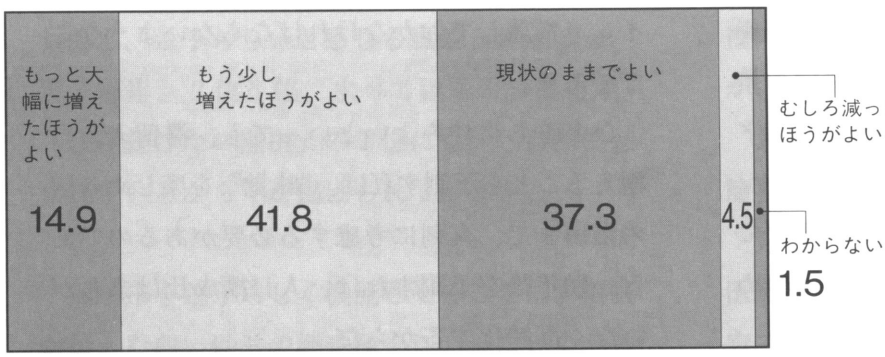
男48人(71.6%)　女19人(28.4%)　計67人

〈年代別〉

30歳代	2人(3.0%)	60歳代	18人(26.9%)
40歳代	15人(22.4%)	70歳以上	8人(11.9%)
50歳代	24人(35.8%)	計	67人(100%)

Q1 逗子の将来の人口は？

逗子市の人口は、現在約５万７千人です。市の将来の人口規模について、あなたはどうお考えになりますか。次の中から１つだけ選んでください。

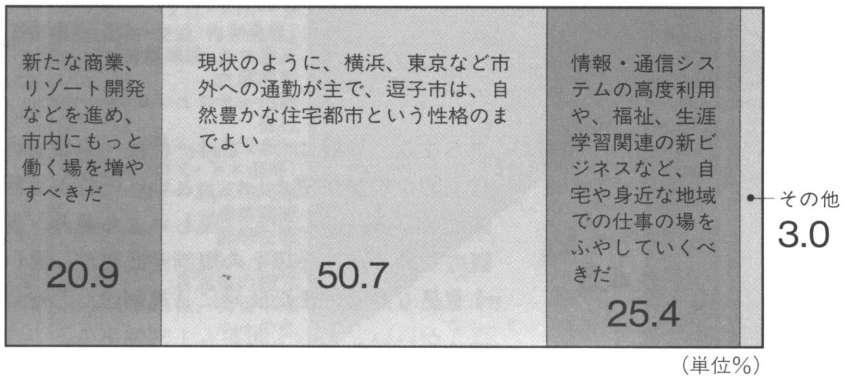


(単位%)

６割弱の回答者が市の人口は増えたほうがよいと考えており、逆に４割強の回答者は現状維持または減ったほうがよいと考えている。1991年に市が実施した「市民意識調査」の結果では、「現状のままでよい(62.2%)」「むしろ減ったほうがよい(16.8%)」があわせて79%の高率となっており、今回は逆の結果となった。これは今回の特定の調査対象者の意識と属性によるものか、依然として漸減傾向の続く市の人口の現状を反映したものかはわからない。

Q2 市民の仕事場の将来は？

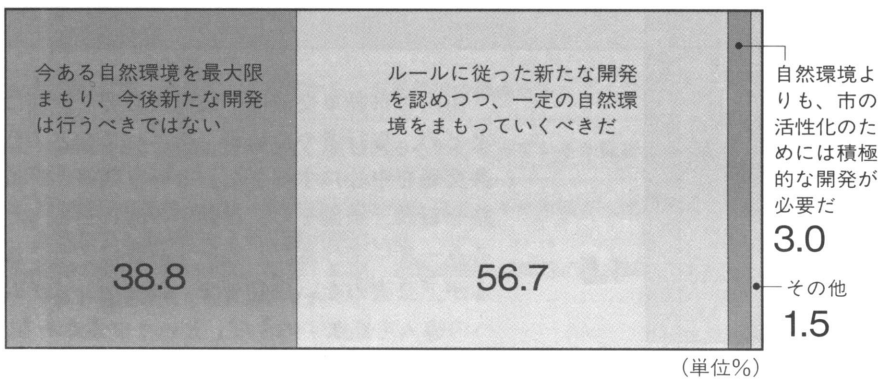
市民の仕事の「場」の将来についてどうお考えになりますか。次の中から１つだけ選んでください。



約5割の回答者は、「現状のように、横浜・東京などの通勤が主で、逗子市は自然豊かな住宅都市という性格のままでよい」と考えている。しかし、「自宅や身近な地域での仕事の場を増やしていくべきだ(25.4%)」「新たな商業、リゾート開発を進めるべきだ(20.9%)」という考え方もある。

Q3 自然環境をどう考えるか？

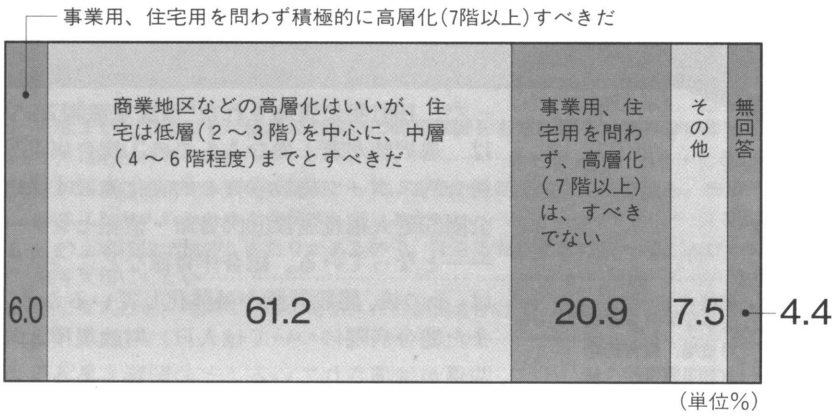
逗子市の自然環境、とりわけ海や緑について、どうお考えになりますか。次の中から１つだけ選んでください。



「ルールに従った新たな開発を認めつつ、一定の自然環境をまもっていくべきだ」という回答者が56.7%と最も多い。しかし、「今ある自然環境を最大限まもり、今後新たな開発は行うべきではない」という見解も４割弱ある。「自然環境よりも、市の活性化のためには開発が必要だ」という意見は３％と少ない。

Q4 建物の高層化は？

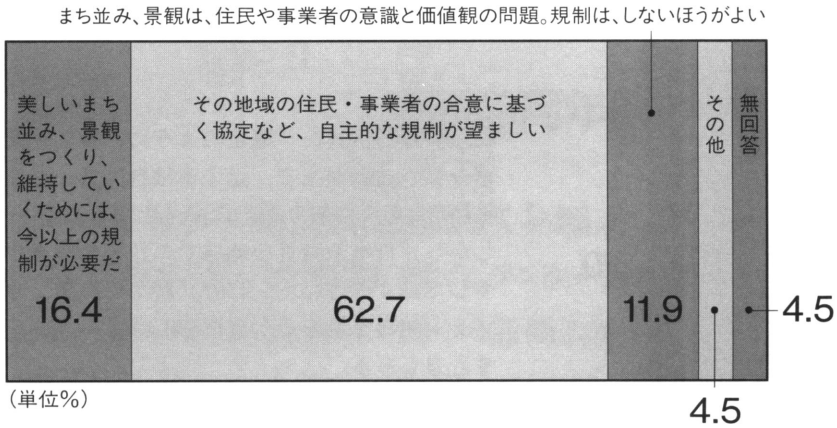
建物の高層化について伺います。次のうち１つだけ選んでください。



「商業地区などの高層化はいいが、住宅は低層を中心に中層までとすべきだ」という回答者が最も多く61.2%。「事業用、住宅用を問わず、高層化は、すべきでない」という意見も約２割ある。「積極的に高層化を進めるべきだ」という意見は６％と少ない。

Q5 まち並み、景観は？

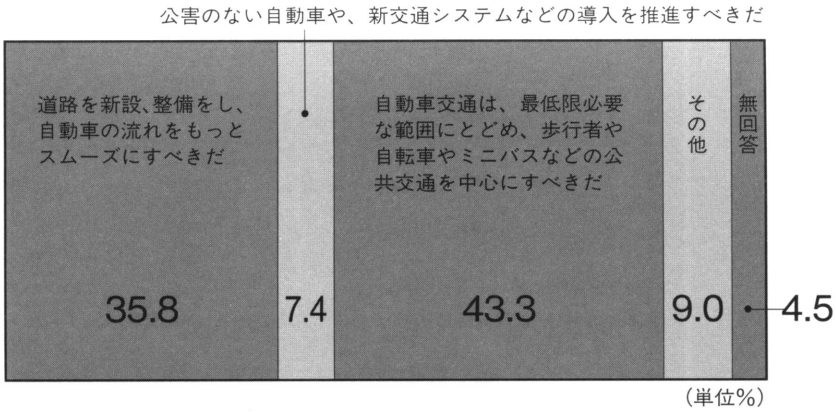
「まち並み」「景観」について、次の中からあなたのお考えに近いものを１つ選んでください。



まち並み、景観については、「住民や事業者の自主的な規制が望ましい」という回答が６割強と最も多い。しかし「美しいまち並み、景観のためには、今以上の規制が必要だ」という意見もある。また反対に「規制は、しないほうがいい」という回答も１割強ある。

Q6 将来の交通システムは？

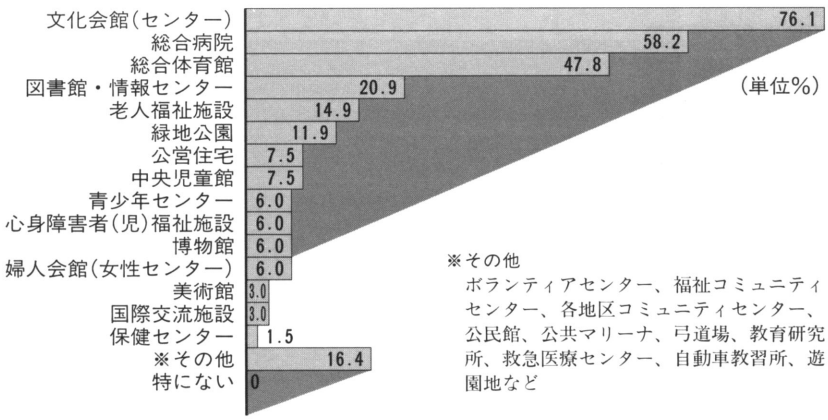
市内の将来の交通は、どうあるべきでしょうか。次の中から１つを選んでください。



「市内の自動車交通は、最低限必要な範囲にとどめ、歩行者や自転車、ミニバスなどの公共交通を中心にすべきだ」という回答と、「道路を新設、整備をし、自動車の流れをもっとスムーズにすべきだ」という回答に２分されるが、「公害のない自動車や、新交通システムへの導入を推進すべきだ」という主張もある。

Q7 どんな公共施設が必要か？

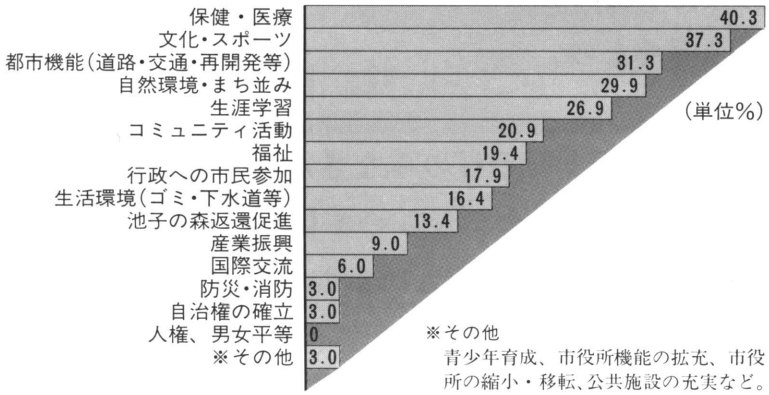
今後ぜひ整備してほしい市の公共施設（中心施設）はなんですか。次の中から３つ以内で選んでください。



①文化会館（センター）76.1%②総合病院58.2%③総合体育館47.8%④図書館・情報センター20.9%⑤老人福祉施設14.9%――の順となった。1991年に実施された「市民意識調査」では、選択肢が若干異なるものの①総合病院②複合的スポーツ施設③複合的文化施設④緑地公園⑤老人福祉施設⑥図書館・情報センター――となっている。総合体育館などについては、その後、建設計画が具体化していること、また総合病院については人口、財政規模との関係が論議されていることの影響もあるものと思われる。

Q8 どんな施策に力点をおくべきか？

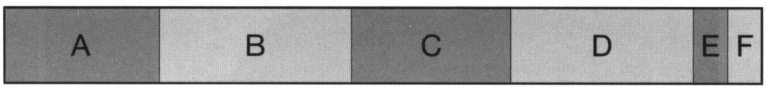
逗子市よりいっそう住み良いまちにするためには、今後どのような施策に力を入れる必要があると思いますか。次の中から３つ以内で選んでください。



①保健・医療40.3％②文化・スポーツ37.3％③都市機能（道路・交通・再開発等）31.3％④自然環境・まち並み29.9％⑤生涯学習26.9％――の順となった。1991年に実施された「市民意識調査」の結果は①保健・医療②自然環境・まち並み③都市機能④福祉⑤生活環境――の順となっている。今回の調査では、調査対象者の特性を反映してか、文化・スポーツ、生涯学習分野の施策の充実を望む声の比重が、比較的高いのが特徴。

Q9 市民の行政参加は？

市民の行政参加について、どうお考えですか。次のうちからあなたのお考えに近いものを１つ選んでください。

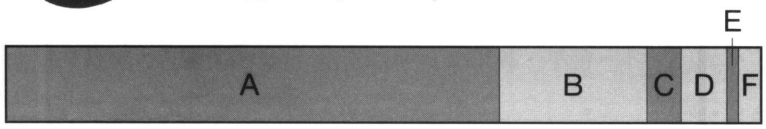


A 政策の立案、形成などの段階から、市民参加の機会をもっとふやしていくべきだ…… 20.9％
B 市民参加が、形式だけでなく、実効あるものになっているか監視をしていく必要がある…… 25.3
C 諮問機関の委員などに一般市民が参加する場合、その委員が市民の多くの意見を代表できるのかどうか人選が難しい…… 20.9
D 選挙のほか、情報公開、広報・広聴、苦情処理など市民の声が反映できるシステムが確立されていれば、それでよい…… 23.9
E その他…… 4.5
F 無回答…… 4.5

今回の調査対象が、市制40周年記念事業に実行委員として参加した人たちだけに、行政に対する参加意識はかなり高い。ただし「諮問機関の委員などに一般市民が参加する場合、その委員が市民の多くの意見を代表できるのかどうか人選が難しい」という問題意識もうかがえる。一方「選挙のほか、情報公開、広報・広聴、苦情処理など市民の声が反映できるシステムが確立されていればよい」という意見は４分の１弱であった。

Q10 コミュニティはどうあるべきか？

コミュニティ（地域社会）のありかたについて、あなたのお考えに近いものを１つ選んでください。



A 行政まかせではなく、住民がお互いに問題意識をもち、協力し住みよいまちづくりに心がけるべきだ…… 65.6％
B この土地に生活するものの権利として、自分の生活上の意見や要望を、市政その他にとり入れられるよう要求していきたい…… 19.4
C この土地には土地のしきたりがあるので、できるだけそれに従って、人びとの和を大切にしたい…… 4.5
D 熱心な人びと、時間に余裕のある人たちが働きかけて、地域を良くしてくれれば、それでよい…… 6.0
E その他…… 1.5
F 無回答…… 3.0

「行政まかせではなく、住民がお互いに問題意識をもち、協力し住みよいまちづくりに心がけるべきだ」という回答が65.6％と最も多いが、「権利として要求していきたい」という意見も２割弱ある。一方「この土地のしきたりに従って……」や「熱心な人びと、時間的に余裕のある人たち」にまかせておけばいい――という意見は、あわせて１割程度であった。

キーワード提言

①逗子の魅力、将来も残しておきたいもの
②逗子に足りないもの、新たに必要なもの
③こうあってほしい逗子の未来像
の3つの設問に、市制40周年記念事業実行委員のみなさんに、それぞれフリーアンサー（字数制限付き）で答えてもらいました。いわばこれは、まちづくりに関するキーワード提言でもあるわけです。原則として原文のままご紹介します。

キーワード提言の読み方

❶逗子の魅力、将来も残しておきたいもの。
❷逗子に足りないもの、新たに必要なもの。
❸こうあってほしい逗子の未来像（10年後～50年後くらい）
〈性別／年代／居住地区〉

※掲載順不同
※表記の統一などのほかは、原則として原文のまま掲載しています。
※調査時点（1994年9月～10月）での意見であることにご留意ください。

❶逗子海岸と海に流れ込む田越川。
❷総合病院と温水プールを備えた体育館。
❸池子の森が返還され、自由に散策できるよう、自然をこわさないよう整備した森。
〈男・50代・沼間〉

❶青い海と自然の森を子孫に残してやりたい。
❷公共施設の充実。
❸若い者が働ける職場を作り、活性化をはかる。
〈男・60代・新宿〉

❶（無回答）
❷財源。
❸自然環境と都市機能の調和のとれたまち。
〈男・30代・その他（市外）〉

❶静かで住み良い環境と文化の香りを次世代へ。
❷文化都市を掲げる市として、文化施設整備急務。
❸（無回答）
〈男・70代以上・逗子〉

❶自然環境と市民自治。

❷行政のリーダーシップ。

❸高齢化社会を支える仕組み(財政基盤、医療、保健、ボランティア体制の確立)。若い力(人口)が必要。

〈男・50代・沼間〉

❶美しい緑の山、青い海、静かな街、豊かな生活。

❷子供から年寄まで安心して集える公園。

❸小さくてもよいから密度の濃い文化都市を目ざして、外国との文化交流など。ヘリポートも必要。

〈女・60代・逗子〉

❶海浜の美。

❷能力のある組長。

❸老人と若者が一体になれる市。

〈男・40代・逗子〉

❶逗子景勝10選の神社仏閣、公園。桜と柳。

❷総合病院。市民の交流憩いの広場。

❸東逗子駅周辺の再開発と整備。田越川河川環境整備と河川工事。水と緑の多い逗子のまち。

〈男・50代・沼間〉

❶自然環境。

❷新市長の出現。

❸子供たちがいつまでも残ってほしい。

〈男・40代・山の根〉

❶逗子海岸、被露山公園。

❷総合病院、文化会館、総合体育館。駐車場。

❸文化の香り高く、スポーツが盛んで完璧な医療に囲まれ、さらにだれでも明快に納得できる街。

〈女・50代・逗子〉

❶海山など自然に恵まれていることを大切に。

❷逗子銀座の商店街のあまりにも自分勝手なこと。

❸子供たちのいじめ等をなくし、お互いを大切にする気持ちを忘れないでほしい。

〈女・60代・桜山〉

❶下駄ばきで買い物ができること。かたがコラナイ。

❷近隣のコミュニケーション。もっと気軽に。

❸高齢化社会となるので、もっと身近に集いの場がほしい。遊びや勉強を気楽に各町内会で。

〈女・50代・逗子〉

❶魅力なし。もっと行政改革してほしい。

❷文化会館、共同グラウンド、運動場、野球場。

❸今のままじゃ夢も希望ももてない。

〈男・不明・不明〉

❶みどりと海。

❷きれいな海岸デザイン、美しいまち並み。

❸みどりと海の美しさ、快適さをより高めるために、美しいまち並みと建物とを計画的に造る。

〈男・50代・逗子〉

❶逗子市は、昔から海岸で知られている美しい海辺。

❷市当局のスポーツに対する認識が足りない。

❸道路、特に歩行者が安心して歩ける幅広い歩道がほしい。

〈男・60代・池子〉

❶今ある自然をできる限り子孫に残してほしい。

❷老人施設（ホーム)。総合病院。

❸よりよい地域福祉の向上と、逗子を、より住みやすい、あたたかい町にと願います。

〈女・60代・沼間〉

❶住みやすい田舎……。ホッとするやすらぎ。

❷住民エゴにとらわれないまちづくり。

❸逗子には海がある。この海を活用しない手はない。日本一のビーチに育てて行くべきだ。

〈男・40代・久木〉

❶海、山、川、自然の美しさ、良い環境を!!

❷スポーツ、文化、児童館、建物がない。

❸桜山に、たくさんの桜木を植え、全国的に桜の名所にする。桜まんじゅう、さくらなべなど。

〈男・50代・桜山〉

❶今ある自然環境、海岸や緑。

❷文化会館。各種目専用グラウンド。

❸現状の自然を守り、公共施設の充実、明るく住みよい都市。

〈男・50代・小坪〉

❶碧い海の美しさと、初冬の富士の姿のみえる橋。

❷観光的名所がみあたらず、客が通りすぎていく。

❸常に帰りたくなるような明るい街。ふるさとであってほしい。

〈女・60代・その他(市外)〉

❶逗子市歴史的重要文化財の保存。

❷文化会館、婦人会館等に市営の結婚式場を。

❸（無回答）

〈男・70代以上・沼間〉

❶逗子の自然を大切に。

❷逗子の海をきれいに、またマリンスポーツの振興。

❸安心して住める自然環境と、医療体制の整備。特に老人対策を万全に。

〈男・60代・逗子〉

❶シゼンカンキョウ。

❷ザイセイゲン。ワカイセイネン。

❸イマノママデハダメ。アカルイシセイ。

〈男・50代・桜山〉

❶観光地としての特徴あるものを残したい。

❷JRとの話合い不足、交通渋滞の解消必要。

❸設備の整った大きな文化会館があって、著名な人びとの講演とか演劇等の上演できる設備。

〈男・50代・山の根〉

❶落ち着いた自然景観を大切にしてほしい。

❷公共施設に力を入れてほしい。(必要な施設を)

❸逗子の人口にあった、安心して住める明るい自然環境で、市民が仲良く生活できるように。

〈女・60代・逗子〉

❶美しい砂のある海、ゆっくり歩ける海岸歩道。

❷総合病院、文化会館。今の体育館ではわびしい。

❸米軍住宅内の人びととコミュニティづくり。お互いに国際交流を深めながら新しい逗子市民作り。

〈女・50代・沼間〉

❶小さな街だけに、自然や人のうるおい。

❷美しい安全な街並み。段差のない歩道。

❸限られた土地ですので、特に中央部分は有効土地利用をし、公の文化施設を充実させる。

〈女・40代・逗子〉

❶町のなかの緑、きれいな海、昔の文化。

❷人と人のつながり。逗子のまちを愛する心。

❸文化、緑豊かな住宅都市で、高齢者が参加できる生涯学習ビジネスの仕事場がある。

〈女・60代・桜山〉

❶市民自治。

❷不平要望するだけではない市民の行動力。

❸適格な規則に従った開発による、住みやすく、コミュニティにあるふた街。

〈女・50代・沼間〉

❶市民としての誇り。

❷施設については多々あり。

❸すべての市民が心豊かで安全に暮らせる町。

〈男・40代・桜山〉

❶東京・横浜にも近く、湘南の香りが、感じられる。

❷逗子に住んでいる誇りが、感じられない。

❸住宅事情を考え、3世代の家族が、過ごしやすい、環境づくりが整備されている。

〈男・40代・池子〉

❶緑と海、この環境は残していきたいと思います。

❷子供たちの遊ぶ施設、市民だれでもいける施設。

❸市の道はせまいので、太陽の光、緑のある歩道ができると楽しいと思います。

〈男・50代・新宿〉

❶浪子不動　海岸ノ砂浜。

❷総合病院　音響設備ノデキタホール。

❸（無回答）

〈女・70代以上・桜山〉

❶おちついた街の雰囲気と清潔な街。

❷住民一人ひとりのモラル。

❸心ある住民が常に街をきれいに保つ努力をし、ゆとりある街並みを互いにつくる。

〈男・40代・逗子〉

❶自然、おだやか、便利、歴史、こぢんまり。

❷公共施設、自然と歴史を大切にする啓発活動。

❸いつまでも自然環境を守り、休日には市内で子供も大人も楽しく過ごせる、静かなまち。

〈男・40代・小坪〉

❶碧い海と緑の森。

❷市民病院、文化会館、婦人会館。市の生涯学習。

❸海山をメインとしたリゾート開発。遊園地、植物園、散策路等、近隣都市より人びとを誘致、市を活性化。

〈女・60代・池子〉

❶逗子海岸や神武寺の自然。

❷地区公民館（各地区に1施設）。

❸スポーツ文化施設の充実。

〈男・60代・沼間〉

❶自然環境と青い海。

❷高齢者が多いので、安心して住める憩いの家。

❸もっと多くの若者が逗子にとどまってほしい。

〈女・50代・桜山〉

❶限りなく美しく豊かな海……。

❷市民が市を愛する心。市が市民を愛する心。

❸限られた文字数では、とても無理。強いて言えば、ごく自然に流れにそって……。

〈男・50代・小坪〉

❶美しい山の緑と海。

❷街路樹などの町中の緑。市民のための諸施設。

❸市民がお互い助け合って住みやすい町を作りたい。

〈女・50代・桜山〉

❶海と緑の美しい山々。

❷文化会館、コミュニティセンター等。

❸若い人たちの住める逗子にしたい。

〈男・50代・池子〉

❶森の中にある住宅の町を将来に残してみたい。

❷客を大切にした食べものの店が少ない。

❸人口も多くなる市政が欲しい。今後子供が年々少なくなる町は、希望のない町となる。

〈男・50代・沼間〉

❶青い海と緑豊かな自然。

❷福祉・文化ホール・図書館等、各種施設の拡充。

❸海と山にかこまれ、自然の中にとけこんだ文化施設等、自然と調和のとれた美しい町。

〈男・50代・小坪〉

❶平和で緑と海にかこまれた住みよい都市。

❷文化施設とスポーツの場、医療施設。

❸物の豊かさと、ともに心の豊かさを大切に。お互いが人権を尊重する明るい町。

〈男・70代以上・山の根〉

❶緑に囲まれた山と、青い海と砂浜をいつまでも。

❷文化会館と体育施設、市民病院を建設する。

❸健康都市宣言により、かけがえのない自然な環境を保ちつつ、健康で心豊かな生活を保つ。

〈男・70代以上・桜山〉

❶一本でも多いみどりの木と、美しい砂浜。

❷やすくておいしい食事のできる店。

❸もっとしっかりした市議が出てほしい。

〈女・60代・桜山〉

❶周りの山々のみどりと、海岸周辺の整備。

❷逗子市市民としての意義、郷土愛。

❸安心して夜間受診を受けられる医療施設。市内交通安全のためのバイパス。

〈男・60代・逗子〉

❶とても短所の目だつ町だが、個性ある人が多い。

❷市営自動車教習所、市営駐車場など。

❸日本一きれいな海の実現。波の音で目がさめる海ぞいのホテル。海底トンネル遊歩道。

〈男・30代・桜山〉

❶緑豊かな、落ち着いた、住宅都市。

❷総合病院、市民会館的シンボルホール。

❸京急線のJR逗子駅乗り入れ。三浦半島の西南交通モノレールのターミナル。

〈男・50代・久木〉

❶海と山。

❷行政の街づくりに対する、強力なエネルギー。

❸もう少し人口が増えて、自然と人間が調和のとれた町になれていれば。

〈男・40代・逗子〉

❶青い海・豊かな緑。

❸海岸の整備と文化施設。

❸商業と観光の発展により、豊かな財政の基に文化的な豊かな街であってほしい。

〈男・50代・逗子〉

❶海と山。ハイキングコースと公園。桜並木。

❷豊かな人間関係。子供に対しての施設。

❸子供が安心して住める街。

〈男・40代・久木〉

❶海・山・街並が一体となった素晴らしい景観。

❷観光客に喜んでもらう施設(トイレ、地図等)。

❸安心して歩ける道の整備により、歩く街として発展させ、市民の健康と観光を生かした街に。

〈女・40代・小坪〉

❶オリジナルイベントを再検討し、10年は継続。

❷スクラップ&ビルド。指導力と市全体の調和。

❸余裕財政のため、また、物心両面に豊かな街づくりを目ざし、観光事業の検討実施。諸施設の完備。

〈男・50代・新宿〉

❶自然に恵まれた、住み良い環境。

❷住民の共存共生の意識に立ったまちづくり。

❸住民同志が心から付き合える人間関係を持ちながら、自然環境の保全、住環境、交通の整備。

〈男・40代・久木〉

❶温暖な気候を保ち、風光明媚な海岸が大切だ。

❷スポーツ文化医療等の公的施設を順次に充実。

❸健康で文化的な街として発展してきた逗子の魅力に惹かれ、住みたい人が住める街にしたい。

〈男・60代・新宿〉

❶（無回答）

❷街の美観、それに対する財政援助と意識改革。

❸従来の一戸建住宅から、集合住宅へと変ぼうする現代、将来に対するイメージプランの作成。

〈男・60代・桜山〉

❶昔からの観光地であるイメージを壊さぬよう。

❷いま逗子にない、公共施設整備を願いたい。

❸時代に沿った施設はよいが、逗子の昔からのイメージを壊さぬよう、子孫に伝えてほしい。

〈男・70代以上・久木〉

❶小さな町にたくわえられた大きなエネルギー。

❷人と人がもっと和合して活気ある町づくりを!!

❸安定した市政と、自然をいかした活気ある町と、新しい教育と、文化の香り高い都市型の逗子。

〈女・50代・小坪〉

❶海、森林、河川をきれいにしたい。海はそのままに。

❷公営駐車場と海辺の駐車場不足。

❸（無回答）

〈男・40代・逗子〉

❶自然環境。特に海。

❷病院、駅ビル、図書館、文化ホール、会議場。

❸海岸の再整備、並木道計画、湘南国際村への新交通アクセス、駅ビル。

〈男・40代・逗子〉

❶海とみどりとおいしい空気。現状の人口規模。

❷文化活動とその施設。気の利いたお店。若者。

❸ウツワだけ立派で無個性なまちより、開かれた、いきいきとした市民交流のできるまち。

〈男・50代・新宿〉

❶池子の森（ただし現状のままで良い）。

❷医療施設・文化施設。

❸逗子は葉山の玄関ではない。駐輪・駐車に葉山ナンバーの多いこと。整備に葉山を入れる。

〈男・60代・桜山〉

市制50周年への提言

市制40周年記念事業実行委員長
田中俊樹

1993年２月12日に第１回企画会議が、公募に賛同した市民を交え開催されました。その会議の中で、行政から提案されたプロのイベント業者をコンサルタントとして起用するか否かが論議され、数回の会議の結果、市民自治都市の名にふさわしく、市民の英知に期待し、プロは起用せず、企画から実践までわれわれ市民が主体となり、執り行うこととなりました。流行語のように使われている市民自治を実践するにふさわしい機会に恵まれたわけであります。

まず最初に実行委員会の骨組みとなる組織作りから始まり、記念事業の内容が民主主義のルールに基づき討議され、最終的な内容は実際に執り行う実行委員の皆様に決定していただく手法を用いました。またこの記念事業の大きな柱となるコンセプトを、第１回の実行委員会にて多数決により「人とまちと自然の調和」、スローガンを「湘南のさわやかな風の通るまち」に決定いたしました。

公募された多くの市民と、市内諸団体から参加された100名を越す委員の方がたには、このような運営方法が初めての方も多く、最初はかなり難航する場面も多々ありました。50周年には、行政事業の一環とする位置付けの上に実行委員会と歩調を合わせ、もう少しスムーズな組織運営であることを期待します。

１．行政への提言

(1)まちづくり新システムの構築

古いまちづくりの方法は、いわゆる行政主導型の箱作りと言われ「市民不在の利用者の少ない立派な施設」に対する反省から、時代は地方分権、市民自治へと移行しつつあります。今回の記念事業はまさしく市民主導型にて数々の事業を展開しました。(交付金：2000万円) その内容を他市のそれと比較していただくといかに血税を有効に使ったかが、おわかりになると思います。

しかしながら、このように節約できたのも委員の方がた、そして関係諸団体のボランティアという名のご協力の賜物を抜きには不可能であったでしょう。この根底には、参加した市民一人ひとりのわがまちをより良くするために協力を惜しまないという共通意識の存在を実感しました。これからのまちづくりには、このようなまちづくりの原動力となる現場のエネルギーを前向きに受け入れる、市民参加型の行政体制を構築することを提言します。

(2)調和のまちづくり

本事業のコンセプトである「人とまちと自然の調和」については、記念誌『Ｚ－ＭＡＰ』冒頭にて述べさせていただいております。内在要素としては

人：人口、人口比率、人種、人権、福祉、教育、政治、文化、スポーツ、芸術、宗教、祭り等

まち：商業地、住宅地、公共施設、病院、神社仏閣、教会、交通機関、道路網、公園、学校、サービス施設等

自然：海、山、海岸、川、丘、空気

等が考えられ、これらは複雑に関連しあい、私たちのまわりに生活環境として影響しあっています。

これらを友好的に結びつけ調和を生み出すためには新秩序の構築が急務であります。そのためには、地球市民意識や国際的視野から見た日本の役割や、日本民族の持つ歴史、文化、哲学に対する誇りを考慮することも必要でしょう。これらのすべての基本は国際的情報の把握、そして地域の自立、さらには個人の人格形成をもたらす人間の知性と良識にあると確信します。

(3)協作による逗子のまちづくり

本誌の行った実行委員の生の声、1991年の市民意識調査、さらには将来を担う10代の意見、「夢の未来図」に絵で表現した子供たちの直観的なメッセージ、そしていろいろな分野の専門家から出していただいた提言などを参考に、最も公益性のあるものか

ら優先し、多くの人が納得できる、共に作る「協作による逗子づくり」を推進したいものです。それには、新秩序の理念として、市民、政治家、市、県、国、それぞれの立場や権限から作られた価値観の押しつけや力比べによる政策実施ではなく、おのおのがそれぞれの情報と知恵を出し合い、協調し合うという基本姿勢を持った「新しい調和のまちづくり」を提言いたします。

(4)安心して住めるまちづくり

この提言書の編集作業が進行中の1995年1月17日、阪神大震災（兵庫県南部地震）が発生しました。被災者のみなさまには衷心よりお見舞申しあげるとともに、悲しみを乗り越えて力強く復興に当たられていることに、心より敬意を表します。

この提言書に掲載した意識調査では「防災・消防」についての要望は、それほど高い順位ではありませんでしたが、現時点で再調査すれば、その結果は一変するものと思われます。あらためて十全な防災、危機管理体制の構築を提言いたします。

2．50周年実行委員会への提言

(1)市民自治のルールおよびシステム作り

市長(行政)、議会、教育委員会、市民の四者による50周年協議会の設定。

(2)行政政策の50周年記念事業の立案

逗子市の半世紀という節目の年に向け、行政政策の各課での取りまとめとその方向性を打ち出し、発表の場を設ける。

(3)準備委員会の設立

50周年度の約3年前より市民参加と行政による準備・企画を立案する組織を作り、前年度までに2年任期の実行委員会組織を設立し、記念年度(2004年)に事業を実施できるようなタイムスケジュールを作る。

(4)団体長連絡協議会(仮称)の設立

今回の記念事業には、約20関係団体の長の方がたに参与として参加していただいたにもかかわらず、準備期間も短く予算付けもできなかったために、それぞれの団体の意見や事業を十分に反映させることはできませんでした。このことから、なるべく早い時期に意見交換、連絡調整のできる組織の設立を提言いたします。

(5)40周年実行委員会の反省点からの提言

今回の実行委員会は、市民自治やボランティア等という美しい言葉の影に、多くの苦労や失敗もあります。その反省点をここに示し、50周年に生かしていただけるよう提言いたします。

①市民・団体・行政一体となった記念事業の実施

反省点：40周年記念誌『Z-MAP』と『広報ずし』記念号、また、シンポジウム・講演会など行政の企画した年度事業と、もっと一体となった事業展開がなされるべきだった。

②事務局は行政内部に設置を

反省点：市民のボランティアだけでの事務局対応には限界がある。外部に事務局を設置すると経費がかさむことを懸念し節約したが、事務局担当委員に、大きな負担がかかった。

③十分な事前調査と詳細なタイムスケジュール

反省点：ボランティアとしての限界もあるが、許認可に要する時間、気象条件（潮の干満なども）など、外的状況の事前調査が不足していたため、「不如帰の碑ライトアップ事業」を企画したが、実施できなかった。(予算150万円は市に返納。同事業を平成7年度に実施するよう陳情書を提出）個々の事業ごとに詳細な事前調査と計画が必要。

④市民委員公募は十分な広報を

反省点：市民委員公募に当たって、事前の広報、調査が不十分であったため、市民、団体に記念年度の認識が低く、また、参加リストにもれた個人、団体にご迷惑をかけた。

あ・と・が・き

●提言書発行に際して、たいへん多くの方がたにご協力いただきました。本当にありがとうございました。実行委員会活動に参加できたことにより、いろいろな方と出会え、そして大勢の方がたと、逗子の夢を語り合う機会を得たことが、もっとも印象に残ることです。

●本当に意味があるのか、今後のまちづくりに重要な提言書になるのだろうか、真剣に取り組ませていただきました。好きなまちに住んでいるからこそ描く夢。子孫から預かっている大切なまち逗子。夢を目的に定め、現実のものとすべき行動を、一歩一歩進めるべきだと思います。

●市制40周年記念事業の一環として「逗子・夢の未来図」というテーマで、小中学生による絵をお願いしたところ、明日の逗子として、緑の多い自然と文明社会の共存が、数多く取り上げられておりました。21世紀へ向けて、ご専門の先生方のご提言を基に、まちづくり運動の第一歩を踏みだして、今後の施策に反映、活用していただきたく存じます。

●今回の提言書にかかわった一人として、「小中学生の夢の未来図」「青少年および一般の方がたの提言」「専門家の方がたの提言」が、10年後に、どのような形で生かされ実現されるか見まもっていきたいと思います。

●この地域に暮らして10年になります。これからもずっとここで暮らしたいと思います。今年もまた、どこからか逗子に来て暮らしはじめた人がいると思います。10年たった時、その人たちに「ずっとここで暮らしたい」と思ってもらいたく、部会の活動に参加させていただきました。21世紀の逗子が〝すばらしいまち〟でありますように……。

●まちづくり、まちおこしは、行政と議会だけではできません。よりよいまちにしたいという市民のハートとアイデアと技能を結集するよい機会が、アニバーサリー・イベントです。これからも期待します。市民参加のまちづくり。

●多様な提言があります。中には相反する見方や提案もあります。それが市民の意識の実態です。これからのまちづくりに、それをどう調整し統合していくかが問われています。

●数年前から商店街の整備計画を研究していましたが、この委員会があることを知り参加しました。多方面にわたるご意見をまとめさせていただき、たいへん参考になりました。この貴重な資料をもとに、市民の皆さまが楽しめる商店街づくりをしたいと思います。

●逗子に生まれ育って50有余年、人口も3倍にふくれ、このまちに暮らす人びとの人間像もだいぶ変化してまいりました。これからの逗子は、新、旧、それぞれのよいところを取り入れ、21世紀に向けて、緑豊かで住みよい立派なまちを作っていきたいと思います。

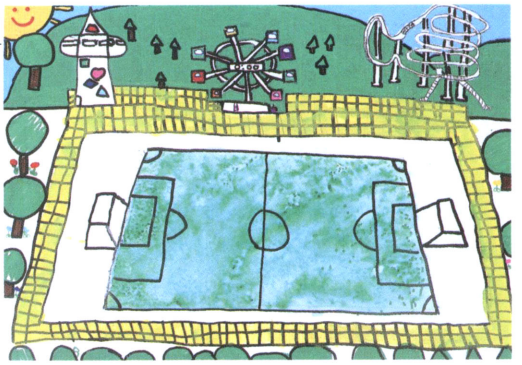
市制40周年記念事業実行委員会 広報室 50周年提言部会
足立俊輔　今泉文代　髙橋蕉翠　照沼信行　東海邦彦
中田常治　長野芳剛　西尾忠幸　山口　晃　山本啓一

市制50周年へ向けての提言書
21世紀の逗子へ

発　行　1995年(平成7年)3月10日
発行者　市制40周年記念事業実行委員会

「逗子・夢の未来図」

小学校高学年の部
優　秀　賞



石渡　洋考　逗子小５年

『遊び場のある 緑の多い町』

大好きなサッカーができる町。

鈴木　千恵　池子小６年

『自然っていいですね』

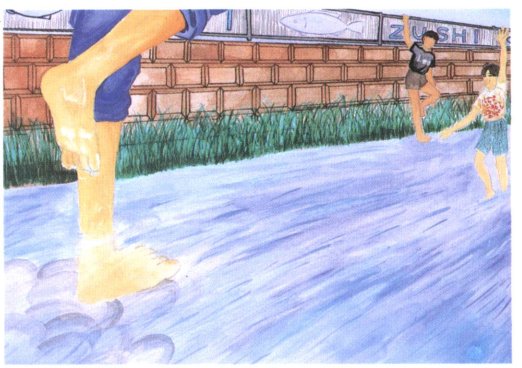
50年後、私がおばあさんになっても、山や森、つまり緑がたくさんある町。

長谷川　友世　沼間小６年

『星の見える逗子』

私は星を見るのが好きで、けっこう夜、星を見ているのですが、空気が悪いせいか、町が明るすぎるのか、あまり星が見えません。だからもっと空気が澄んで、星がよく見える逗子になってほしいと思いました。

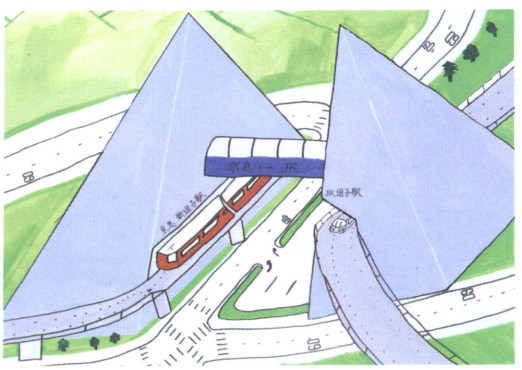
中学校の部
優　秀　賞



倉部　慶子　逗子中２年

『靴のいらない街』

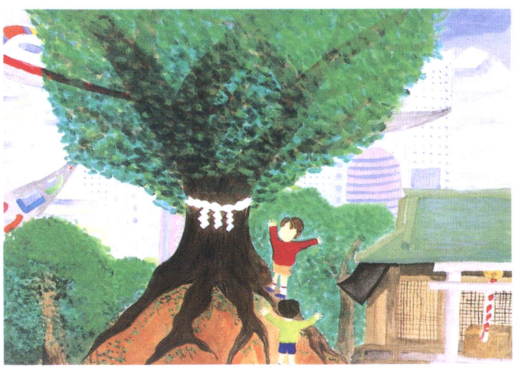
川底を丸い石で敷きつめ、底が見えるほどの透明な水を持つ「川」を「自然」の象徴にしました。そんな自然に素足のまま接することができる街でありたい。



三留　崇征　逗子中２年

『逗子・夢の未来図』

JR逗子駅周辺を描いた絵。



山崎　めぐみ　沼間中１年

『こうなってほしい 未来の逗子』

五霊神社をモデルにし、いちょうの木や神社やいろんな木が残ってほしいという願いと、もっと発展してほしいという２つの願いを込めてかきました。

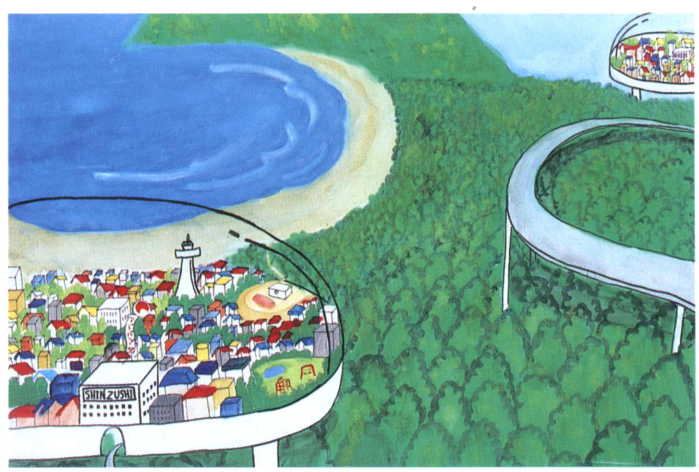
小学校高学年の部
最優秀賞

玉川　美炎　小坪小５年

『自然公園』

逗子の自然をいかして、みんなが楽しめる自然公園が作られ、ゴミ処理の熱を、各家庭に配る設備もできる。

中学校の部
最優秀賞



根建　美奈子　逗子中２年

『逗子の未来の図』

未来の逗子は、自然がいっぱいで高いみはらしの良い所に住みやすい逗子がある。

市制40周年記念事業実行委員会